NETGEAR

ReadyNAS RAIDiator 4.x

ソフトウェアマニュアル

ReadyNAS Duo v1
ReadyNAS NV+ v1
ReadyNAS 1100

350 East Plumeria Drive
San Jose, CA 95134
USA

2012 年 2 月
202-10988-01

© 2012 by NETGEAR, Inc. All rights reserved.

テクニカルサポート

電話によるサポートサービスを受けるには、ウェブサイトまたはお電話による事前登録が必要です。世界各地のカスタマーサポートセンターの電話番号は、本製品付属の保証およびサポート情報カードに記載されています。

ウェブサイト *http://www.netgear.jp/supportInfo/* で製品のアップデートおよびウェブサポートに進んでください。

商標

NETGEAR、NETGEAR のロゴ、ReadyNAS、NeoTV、X-RAID、X-RAID2、FrontView、RAIDar、RAIDiator、Network Storage Processor、および NSP は NETGEAR, Inc. の商標および登録商標です。Microsoft、Windows、Windows NT、および Vista は Microsoft 社の登録商標です。その他のブランドや製品名は、それぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

免責事項

製品の内部設計、操作性や機能性、信頼性などを改善するため、NETGEAR は本書に説明された製品に予告なく変更を加えることがあります。

NETGEAR は、本製品の使用や適用、または製品の回路設計によって起こりうる一切の責任を負いかねます。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI—B

目次

第 1 章　はじめに

システム要件 7
追加ドキュメント 7
はじめに 7
RAIDar とは 10
FrontView について 12

第 2 章　ストレージの管理

基本ディスク構成について 16
RAID 16
ボリューム 16
X-RAID と Flex-RAID 17
X-RAID でストレージ容量を管理する 17
ディスクの追加 18
すべてのディスクを入れ替えてストレージ容量を増やす 18
Flex-RAID でストレージ容量を管理する 19
Flex-RAID に変更する 20
ボリュームの作成 21
ボリュームにディスクを追加 22
ボリューム内のディスクを交換 23
USB 機器を使用する 24
USB 機器の管理 25
USB 機器の内容を自動的にコピーする 26

第 3 章　ファイルの保護

セキュリティモードの選択 28
セキュリティモードの選択 28
ドメインサーバの設定 29
ユーザとグループの管理 30
ユーザの管理 30
プライベートホーム共有のカスタマイズ 33
グループ管理 35
ユーザのインポートとエクスポート 37
管理者パスワードの変更と復元 40

第 4 章　ファイルの保存

共有の基本概念 42
データの管理 42
ファイル共有プロトコル 43
アクセス権限 44
ファイル共有プロトコルの管理 45
共有を作成する 48
ユーザまたはドメインセキュリティモードで共有を作成する 48
共有セキュリティモードで共有を作成する 48
共有アクセスの管理 49
ユーザまたはドメインセキュリティモードで共有アクセスを管理する 50
共有セキュリティモードで共有へのアクセスを管理する 60
共有のオプション設定 62
共有を隠す 62
CIFS 共有のごみ箱を使用する 62
CIFS を使ってファイルをローカルでキャッシュする 63
NFS を使用した同期を有効にする 63
新規ファイルとフォルダの権限を設定する 64
名前変更と削除の権限を拡大する 65
共有の所有権と権限のリセット 66
共有にアクセスする 67
Windows から共有にアクセス 67
Mac OS X から共有にアクセス 67
UNIX または Linux から共有にアクセス 68
FTP を使って共有にアクセス 68
Web ブラウザを使って共有にアクセス 68
ReadyNAS Remote を使って共有にアクセス 69

第 5 章　マルチメディアファイルのストリーミング

Firefly で iTunes のマルチメディアファイルをストリーミング 73
iTunes ストリーミングの設定 73
スマートプレイリストを使う 74
ストリーミングする音楽ファイルを選ぶ 75
サーバ名とパスワードの変更 75
メディアファイルのスキャン方法を変更する 76
ReadyDLNA で TiVo と Xbox のマルチメディアファイルをストリーミング 77
ReadyNAS Photos を使って写真を共有 78
ReadyNAS Photos を始める 78
フォトアルバムの作成 78
写真の表示と共有 79
ディスカバリサービスの設定 80

第 6 章　ファイルのバックアップ

Time Machine を使い、Mac を ReadyNAS へバックアップ 82
ReadyNAS Vault を使って ReadyNAS をリモートバックアップ 83
ReadyNAS へ、および ReadyNAS からのバックアップ. 83
　バックアップジョブの作成. 84
　バックアップボタンにバックアップジョブを割り当てる 88
　バックアップジョブの編集. 89
　バックアップデータの復元. 89
　スナップショットを使う 90

第 7 章　その他のサービス

ローカル Web サイトの作成とアクセス 94
プリンタの設定 94

第 8 章　ReadyNAS の管理

時刻とタイムゾーンの設定 97
言語の設定 98
警告の送信 98
　警告メール送信用に使われるアカウントの変更 99
　警告を受信する人を変更する. 99
　警告を送信するタイミングを決定する. 100
ReadyNAS のオン / オフを切り替える 100
　ReadyNAS を今すぐオフにする. 100
　ReadyNAS の再起動. 101
　スケジュールを使い、ReadyNAS のオン / オフを切り替える. 101
　トラブルを避けるため、ReadyNAS を自動的にオフにする 102
バックアップと復元の設定 102
アドオンの管理 103
　インストールされたアドオンの管理 103
　アドオンのインストール 103
パフォーマンスの向上 104
ネットワーク設定. 105
　TCP/IP アドレス情報の設定. 105
　ReadyNAS を DHCP サーバとして設定する 106
　ホスト名の変更. 106
　イーサネットオプションの設定 107
　WINS サポートを有効にする 107
　ジャンボパケットサポートを有効にする 108
ログファイルの表示 108

付録 A　適合性に関する情報

索引

はじめに

1

本マニュアルでは、ReadyNAS Duo、ReadyNAS NV+、および ReadyNAS 1100 ストレージシステム専用の RAIDiator 4.x ソフトウェアの使い方について説明しています。

この章には次の内容が含まれます。

- *システム要件*
- *追加ドキュメント*
- *はじめに*
- *RAIDar とは*
- *FrontView について*

システム要件

- Microsoft® Windows® 7、Vista™、XP、2000、Mac OS®、UNIX®、Linux®
- Microsoft® Internet Explorer® 7.0 以上、Apple® Safari® 2.0 以上、Mozilla Firefox® 2.0 以上、Opera® 9.5 以上、Google Chrome™ 10 以上

追加ドキュメント

ReadyNAS Duo、NV+、および 1100 の構成、管理、使用方法については、ハードウェアマニュアルをご覧ください。マニュアルは次の URL からご覧いただけます :
http://www.readynas.com/ja/documentation

NETGEAR は ReadyNAS 製品をサポートするコミュニティ Web サイトを運営しています。レビュー、チュートリアル、比較チャート、ソフトウェアアップデート、ドキュメント、およびアクティブユーザーフォーラム、その他のコンテンツは、*http://readynas.com/ja/* にてご覧いただけます。

はじめに

ここでは ReadyNAS を立ち上げるまでの手順をご紹介しています。

➢ **ReadyNAS を使い始める :**

1. ReadyNAS を使い始める前に、ハードウェアマニュアルの指示に従ってください。

   マニュアルは次の URL からご覧いただけます。
   http://www.readynas.com/ja/documentation

2. ディスクが搭載されていないモデルをお買い上げの場合は、少なくとも 1 台のディスクをインストールしてください。

   この場合、ReadyNAS ハードウェア互換性リスト (*http://www.readynas.com/ja/?page_id=82*) に記載されたディスクをお求めください。

   ディスクのインストール方法について詳しくは、ハードウェアマニュアルをご覧ください。

3. ReadyNAS を起動します。
4. ご利用のコンピュータに合ったバージョンの RAIDar をダウンロードします。

   RAIDar はホームページ (*http://www.readynas.com/ja/?cat=41*) からダウンロードいただけます。

5. インストーラを起動し、画面の指示に従って RAIDar をインストールしてください。
6. RAIDar を起動します。
7. ご利用の ReadyNAS を選択し、［**設定**］ボタンをクリックします。

   ブラウザが起動し、ユーザ名とパスワードを入力するダイアログボックスが表示されます。

8. ユーザ名とパスワードを入力し、［**次へ**］をクリックします。

   以下はデフォルトの値です。

   - **ユーザ名** : admin
   - **パスワード** : netgear1

   いずれも大文字と小文字を区別します。

   FrontView がセットアップウィザードモードで表示されます。最初の画面には ReadyNAS に関する基本情報が表示されます。

9. 各画面で情報を入力し、［**適用**］ボタンをクリックし、［**次へ**］をクリックします。

   ［次へ］ボタンを押す前に［適用］ボタンを押さなければ、変更は無効となります。

   セットアップウィザードには次のような画面があります。

   - **時計**: 時刻とタイムゾーンが正しいことを確認してください。詳しくは 97 ページの *時刻とタイムゾーンの設定*をご覧ください。
   - **通知者**: ディスクの故障など、注意すべきシステムイベントが発生したときに、指定した送り先に警告メールを送信することができます。警告通知者の欄にメールの送り先を 3 人まで指定して入力してください。その後、メールを送信するアカウントの情報を入力してください。メールを送信するアカウントのメールアドレスは、管理者のメールアドレスと異なっても構いません。詳しくは 98 ページの *警告の送信* をご覧ください。
   - **イーサネット**: この情報は、通常は変更の必要はありません。詳しくは 105 ページの *ネットワーク設定*をご覧ください。
   - **グローバル設定**: ReadyNAS のホスト名と DNS 設定を変更します。分かりやすい名前をつけることをお勧めします。DNS 設定は、通常は変更の必要はありません。詳しくは 105 ページの *ネットワーク設定*をご覧ください。
   - **管理者パスワード**: FrontView にログインするためのパスワードを変更することができます。また、パスワード復元に使用する質問と回答を入力すると、パスワードを忘れてしまった場合、専用の Web ページで質問の答えとここで指定したメールアドレスを入力します。両方を正しく入力すると、新しいパスワードが指定のメールアドレスに送られてきます。詳しくは 40 ページの *管理者パスワードの変更と復元* をご覧ください。

- **セキュリティモード**: この画面は、ReadyNAS NV+ または 1100 をお使いの場合のみ表示されます。共有のファイルの保護方法を選ぶことができます。NETGEAR は、ユーザモードを選択し、共有にアクセスできる人に対してユーザアカウントを作成し、それぞれにユーザ名とパスワードを設定することを推奨します。共有モードは最新の Max OS X や Windows には対応できないので推奨いたしません。また、ドメインモードは、ローカルネットワーク上に Windows サーバや Active Directory サーバが必要となるため、推奨いたしません。詳しくは 28 ページの *セキュリティモードの選択* をご覧ください。
- **アカウント**: ReadyNAS にアクセスできるユーザのアカウントを作成します。詳しくは 30 ページの *ユーザとグループの管理* をご覧ください。
- **ファイル・サービス**: 使用するファイル共有プロトコルを選択します。詳しくは 41 ページの *ファイルの保存* をご覧ください。
- **ストリーミング・サービス** : ReadyNAS からネットワーク上の他の機器にマルチメディアファイルをストリーミングするための方法を選択します。詳しくは 72 ページの *マルチメディアファイルのストリーミング* をご覧ください。
- **インストール済みのアドオン**: ReadyNAS Photos と ReadyNAS Remote を使用するかどうかを選択します。ReadyNAS Photos を使うと、写真を他のユーザと共有することができます。ReadyNAS Remote を使うと、ローカルネットワーク上にないコンピュータからも自分のファイルにアクセスすることができます。アドオンに関する詳細は、103 ページの *アドオンの管理* をご覧ください。ReadyNAS Photos に関する詳細は、78 ページの *ReadyNAS Photos を使って写真を共有* をご覧ください。ReadyNAS Remote に関する詳細は、69 ページの *ReadyNAS Remote を使って共有にアクセス* をご覧ください。
- **リストの共有と共有の追加**: 他のユーザとファイルを共有する共有フォルダの作成や設定をします。デフォルトで media と backup の共有が設定されています。詳しくは 41 ページの *ファイルの保存* をご覧ください。
- **USB プリンタ**: ReadyNAS の USB ポートにプリンタを接続すると、プリンタの共有について設定することができます。詳しくは 94 ページの *プリンタの設定* をご覧ください。

いつでも［**アドバンスコントロールへ切替**］ボタンを押すと、セットアップウィザードを終了します。これらの画面に含まれるオプションは、後から設定することもできます。

10. (オプション)［**製品の登録**］ボタンをクリックし、画面の指示に従って ReadyNAS を登録します。

    NETGEAR の電話サポートをご利用になるには、登録が必要です。

RAIDar とは

RAIDar は、ネットワーク上の ReadyNAS を検出するためのソフトウェアアプリケーションです。RAIDar には ReadyNAS の状態を示すアイコンと、操作を実行するためのボタンがあります。下図をご覧ください。

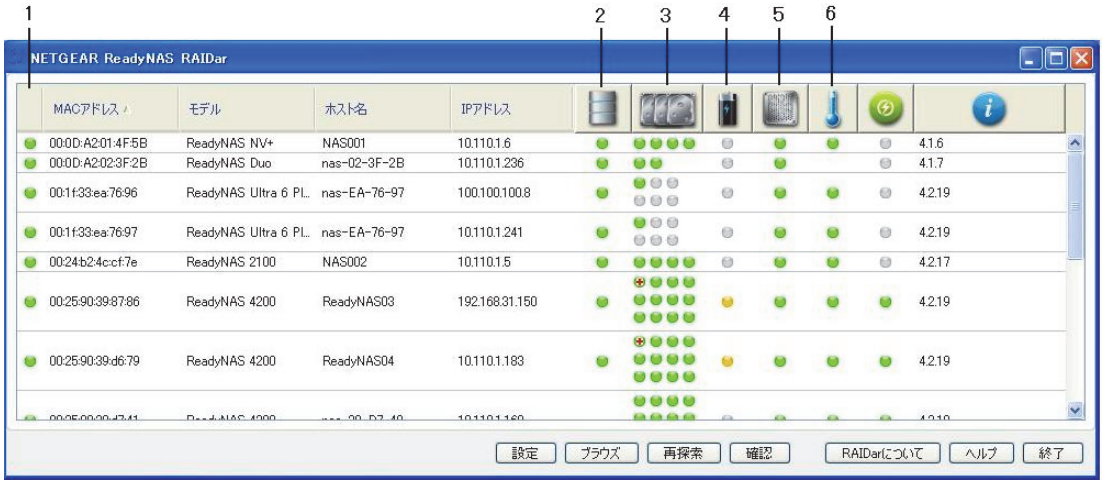

図 1 RAIDar アイコン

1. 全体
2. ボリューム
3. ディスク
4. UPS
5. ファン
6. 温度

マウスポインタを LED アイコン上にかざすと、このコンポーネントに関する詳細が表示されます。例えば、マウスポインタを温度の LED アイコンの上にかざすと温度を見ることができ、ボリュームの LED アイコンの上にかざすとボリュームの合計サイズが表示されます。

下表は各 LED アイコンの説明です。

表 1. RAIDar LED アイコンの説明

アイコン	LED アイコン	説明
全体		正常に動作しています。
		故障中か、または注意が必要です。
		アップデートのインストールなど、時間のかかる操作を実行中です。
ボリューム		ボリュームが正常に動作しています。
		ボリュームが故障中か、または注意が必要です。
	(点滅)	ボリュームは同期中です。
		ボリュームに複数のディスクエラーが発生したため、ライフサポートモードになっています。データが失われる可能性があります。NETGEAR のテクニカルサポートにお問い合わせください。 機能しているディスクを誤って取り外してしまったためにボリュームライフサポートモードに入った場合、NETGEAR テクニカルサポートに連絡することでデータを復元できる可能性があります。
ディスク		ディスクが接続されていません。
		ディスクが正常に動作しています。
		ディスクが故障中か、または注意が必要です。
	(点滅)	ディスクは同期中です。
		ディスクはスペアディスクとしてスタンバイしています。ディスクが故障した場合、このディスクが自動的に置き換わります。
UPS		UPS デバイスは使用できません。
		UPS デバイスは正常に動作しています。
		UPS デバイスは故障する可能性があり、注意が必要です。
ファン		ファンは正常に動作しています。
		ファンは故障する可能性があり、注意が必要です。
温度		温度は通常使用範囲内です。
		温度は危険なレベルです。

RAIDar 画面下のボタンは、ReadyNAS で次のような操作を行います。

- **設定**: 選択した ReadyNAS の、FrontView を起動します。FrontView では、ReadyNAS の設定を変更できます。
- **ブラウズ**: 選択した ReadyNAS で利用可能な共有を表示します。このボタンは、Windows でのみ利用可能です。
- **再探索**: ネットワーク上の ReadyNAS の各ステータスを更新します。
- **確認**: 選択した ReayNAS の LED が点滅します。これは、複数の ReadyNAS 本体があり、どの RAIDar がどの本体に対応するかを判断する際に便利です。
- **RAIDar について**: バージョン情報を表示します。
- **ヘルプ**: RAIDar に関するヘルプを表示します。
- **終了**: RAIDar を終了します。

FrontView について

FrontView は ReadyNAS を Web ブラウザ上で管理するインターフェースです。FrontView を使うと、ファイルを保存する共有を作成したり、ユーザアカウントを作成したり、ファイルにアクセスできる人を選んだり、ファイルを保護するためにバックアップを行ったり、という操作が簡単に行えます。

FrontView は Web ブラウザ上に表示されるので、以下のブラウザに対応可能なコンピュータなら、すべて確認することができます。

- Microsoft® Internet Explorer® 7.0 以上
- Apple® Safari® 2.0 以上
- Mozilla Firefox® 2.0 以上
- Opera® 9.5 以上
- Google Chrome™10 以上

初めて FrontView を立ち上げる時、セットアップウィザードが開きます。ここで ReadyNAS 設定を簡単に行うことができます。初めてセットアップウィザードを立ち上げた時、または [アドバンスコントロールへ切替] ボタンをクリックした時、FrontView はアドバンスコントロールモードに入り、さらに多くのオプションが表示されます。ここで編集する設定を選ぶことができます。

下図は、アドバンスコントロールモードでの FrontView を示しています。

図 2 ReadyNAS FrontView のアドバンスコントロールモードでのメインメニュー

1. メインメニュー
2. ステータスバー
3. 適用ボタン

ステータスバーには現在の時刻と ReadyNAS のコンポーネントの状態が表示されます。10 ページの *RAIDar とは*で説明している、RAIDar と同じステータスランプを使用します。マウスポインタをステータスランプの上にかざすと、コンポーネントのディスクサイズや UPS 接続の有無などの詳しい状態が表示されます。現在の時刻をクリックすると、時刻を変更したり、タイムゾーンを設定できます。

ReadyNSA を設定した後、設定を変更する必要がある場合は、FrontView を使用してください。

➢ **FrontView を使用する：**

1. RAIDar を起動します。

   RAIDar については 7 ページの*はじめに*を参照してください。

2. ご利用の ReadyNAS を選択し、**［設定］**ボタンをクリックします。

   ログインのダイアログボックスが表示されます。

3. ログイン情報を入力してください。

   以下はデフォルトの値です。

   - **ユーザ名** : admin
   - **パスワード** : netgear1

   セットアップウィザードを使用した際にパスワードを変更しているはずです。これは、データを保護する上で重要なステップです。パスワードを変更した場合は、デフォルトのパスワードではなく、新たに設定したパスワードを入力してください。

4. FrontView のメインメニューから項目を選択し、表示したり変更したりできます。

   メインメニューが表示されない場合は、**［アドバンスコントロールへ切替］**のボタンをクリックします。

5. 変更した場合は**［適用］**をクリックします。

   ［適用］ボタンをクリックしなければ、変更は保存されません。

ストレージの管理

2

この章では、ReadyNAS のディスクを管理する方法について説明しています。ストレージ容量の増加方法や、X-RAID と FlexRAID のどちらを選ぶかについても記載しています。また、USB 機器を ReadyNAS に接続し、ストレージ容量を増やすこともできます。

この章には次の内容が含まれます。

- *基本ディスク構成について*
- *X-RAID でストレージ容量を管理する*
- *Flex-RAID でストレージ容量を管理する*
- *USB 機器を使用する*

基本ディスク構成について

ディスク構成の概念を理解することで、ReadeyNAS ストレージシステムを最大限に活用することができます。また、それにより ReadyNAS の構成、管理、使用方法について正しい判断ができるようになります。

ReadyNAS のハードディスクは、様々な方法で構成することができます。もっとも一般的なのは、各種 RAID 技術を使った方法です。

RAID

RAID は Redundant Array of Independent Disks の略です。RAID はストレージシステムのデータをどのように配分するかによって、データ保護、システムパフォーマンス、保存容量のバランスをとるストレージ技術です。データ配分の方法は、各種 RAID レベルで決まっています。各 RAID レベルによってデータ保護、システムパフォーマンス、保存容量のどれを重視するかが異なります。例えば、ある RAID レベルはデータ保護に長けていますが、保存容量は減少するかもしれません。ある RAID は保存容量を確保できるものの、システムパフォーマンスが劣っているかもしれません。

ReadyNAS は、管理のしやすい独自のシングルボリューム RAID 構造を持つ X-RAID® と、ディスクを各 RAID レベルにフォーマットできる Flex-RAID に対応しています。

ボリューム

一般的に、ボリュームはデータを保存するデバイスです。コンピュータにとってボリュームはハードディスクや外付け USB メモリを指します。

ボリュームには、物理ボリュームと論理ボリュームがあります。通常、*物理ボリューム* はハードディスクドライブを指します。その場合、2 ベイストレージシステムでは最大 2 つの物理ボリューム（ハードディスク）を持つことができ、4 ベイストレージシステムでは最大で 4 つまでの物理ボリューム、6 ベイストレージシステムには最大で 6 つまでの物理ボリュームを持つことができます。

論理ボリューム とは、ストレージ容量を分割したり、パーティションに分けたりすることを指します。

- 1 つの論理ボリュームが 1 つのハードディスクドライブを指すこともあります。
- 1 つの論理ボリュームが複数のハードディスクドライブから成る場合もあります。

本書では、*ボリューム* とは *論理ボリューム* を指し、*ハードディスクドライブ* および *ディスク* は *物理ボリューム* を指します。

X-RAID と Flex-RAID

ご利用の ReadyNAS では、X-RAID と Flex-RAID の 2 つの RAID を選ぶことができます。

- **X-RAID**: NETGEAR の独自の単独ボリューム構造で、ReadyNAS のディスク数により、どの RAID が最適であるかを自動検出します。X-RAID は可能な限り、ディスクエラーからデータを保護します。ReadyNAS に複数のディスクがあり、1 つが故障した場合、ファイルは一切失われることなく、ReadyNAS に通常通りアクセスすることができます。ReadyNAS にディスクを追加すると、ユーザが本体にアクセスしている間もバックグラウンドでフォーマットが行われます。
- **Flex-RAID**: 作成するボリューム数、ボリュームの種類、ディスクをホットスペアとして使用するか（他のディスクが故障した場合、ホットスペアが自動的に置き換わります）などを選ぶことができ、X-RAID よりも柔軟性があります。Flex-RAID では、ディスクにボリュームを追加する際に X-RAID よりも手間がかかります。これは、手動でデータをバックアップする際にシステムをオフラインにし、ディスクを追加し、そしてデータを復元する必要があるためです。

X-RAID でストレージ容量を管理する

X-RAID は ReadyNAS NV+ と ReadyNAS Duo のデフォルトのディスク管理システムです。ReadyNAS にインストールされたディスクの数に基づき、どの RAID が最適かを判断して選びます。これにより、ディスクの故障などからデータを保護することができます。

1 台のディスクがインストールされている場合、X-RAID はすべての容量をデータ保存に使用します。ただし、ディスクが故障した場合、すべてのファイルは失われます。

2 台以上のディスクがインストールされている場合、ディスクが故障してもデータを保護することができます。ディスクが 2 台の場合はミラーリングが行われ、1 台目のディスクが 2 台目のディスクデータの完全なコピーを保持します。ディスクが 3 ～ 4 台の場合、1 台目のディスクはディスク故障の際にデータを復元するための情報が保存され、残りのディスクはデータ保存に使用されます。X-RAID 設定の ReadyNAS の容量は、以下のとおりインストールされているディスクの数により異なります。

- ReadyNAS に 2 台のディスクがインストールされている場合、1 台のディスク分のストレージ容量があります。
- ReadyNAS に 3 台のディスクがインストールされている場合、2 台のディスク分のストレージ容量があります。
- ReadyNAS に 4 台のディスクがインストールされている場合、3 台のディスク分のストレージ容量があります。

ディスクを追加するとバックグラウンドで自動的にフォーマットされ、X-RAID ボリュームに追加されます。この間、ユーザは通常どおり本体にアクセスすることができます。2 台以上のディスクがインストールされている場合、いずれかのディスクが故障すると、管理者にディスクの交換をするようメールが送られます。その間も、ユーザは引き続き ReadyNAS を使用することができます。

ReadyNAS のすべてのディスクがいっぱいの場合でも、ディスクを 1 台ずつ大きな容量のものと交換することで、ストレージ容量を拡張することができます。

ディスクの追加

ディスクの故障やストレージ容量の拡張のために、ReadyNAS へディスクを追加することができます。本体に 2 台目のディスクを追加すると、ディスクはミラーリングされます。3 台目、または 4 台目のディスクを追加すると、ディスク 1 台分の容量がディスクの復元情報の保存に使われます。

➢ **ディスクを追加する：**

1. ReadyNAS と互換性のあるディスクをお使いください。

   対応ディスクについては Web サイト (*http://www.readynas.com/ja/?page_id=82*) でご確認ください。

   パフォーマンス向上のために、同じメーカー、型番、サイズのディスクをご利用いただくことを推奨します。異なるサイズのディスクを使用する場合、ReadyNAS は一番小さいサイズのディスクに合わせて、すべてを同じサイズとして扱います。例えば、1TB のディスクを 3 台と、500GB のディスクを 1 台インストールした場合、すべてのディスクが 500GB として扱われるため、ファイルが保存できるのは 1.5TB の容量ということになります。

2. ディスクを追加する際は、ハードウェアマニュアルに従ってください。

   新しいディスクのフォーマットが始まると、管理者にメールが送信されます。また、フォーマットが完了した時点でもう 1 通メールが送信されます。ディスクサイズと ReadyNAS 内のファイル数によって、この処理には数時間かかることがありますが、通常どおり ReadyNAS 本体にアクセスすることができます。

すべてのディスクを入れ替えてストレージ容量を増やす

すべてのディスクがいっぱいになった場合は、すべてのディスクを大きな容量のものと交換してストレージ容量を拡張することができます。データの損失を防ぐため、ディスクは 1 台ずつ交換してください。1 台のディスクを交換するのに数時間かかるため、全てのディスクを交換するには 1 日以上かかる場合があります。ただし、この方法で行うとデータ損失の心配がなく、すべての処理を行っている間も ReadyNAS を通常どおり使用することができます。

➢ **すべてのディスクを入れ替えてストレージ容量を増やす：**

1. ReadyNAS と互換性のあるディスクをご用意ください。

   対応ディスクについては Web サイト (*http://www.readynas.com/ja/?page_id=82*) でご確認ください。

   パフォーマンス向上のために、同じメーカー、型番、サイズのディスクをご利用いただくことを推奨します。異なるサイズのディスクを使用する場合、ReadyNAS は一番小さいサイズのディスクに合わせて、すべてを同じサイズとして扱います。例えば、1TB のディスクを 3 台と、500GB のディスクを 1 台インストールした場合、すべてのディスクが 500GB として扱われるため、ファイルが保存できるのは 1.5TB の容量ということになります。

2. ディスクを交換する際は、ハードウェアマニュアルに従ってください。

   新しいディスクのフォーマットが始まると、管理者にメールが送信されます。また、フォーマットが完了した時点でもう 1 通メールが送信されます。

3. 最初に交換したディスクがフォーマットされたら、次のディスクを交換します。すべての交換が終わるまで、この作業を繰り返します。

   最後のディスクのフォーマットを終えると、ReadyNAS は拡張された容量で使用できるようになります。

Flex-RAID でストレージ容量を管理する

Flex-RAID は、作成するボリューム数、使用する RAID レベルの種類、ディスクをホットスペアとして使用するかどうかなどを選ぶことができます。他のディスクがエラーを起こした場合、ホットスペアが自動的に故障ディスクに置き換わります。Flex-RAID は以下 3 種類の RAID に対応しています。

- **RAID 0**: ディスク内のすべての容量をデータ保存に使用しますが、ディスク故障の際のデータ保護には対応していません。RAID 0 は、データを複数のディスクに並行して書き込むので、最も高い書き込みパフォーマンスが得られます。ただし、1 台のディスクでエラーが生じると、すべてのデータを失うことになります。RAID 0 ボリュームは 1 台、または複数のディスクで作成できます。ボリューム内の最小サイズのディスクに、ボリューム内のディスクの個数をかけた値がボリューム全体の容量になります。例えば、4 台の同一容量のディスクを使用した場合、4 台のディスクの合計がボリューム全体の容量となります。
- **RAID 1**: 同一データを 2 台以上のディスクに書き込むため、ディスクの故障に対してもっとも高い保護機能を提供します。総容量は、ボリューム内の最小サイズのディスクと同じになります。
- **RAID 5**: パフォーマンスを保ちながら、データ保護機能とのバランスを維持します。RAID 5 は 3 台以上のディスクにデータを分散して書き込むと同時に、各ディスクにパリティ情報も保存します。1 台のディスクでエラーが起きた場合、残りのディスクに保存されているパリティ情報を利用して故障したディスク内のデータを再構築します。その間も速度は遅くなりますが、データの読み書きは可能です。故障ディスクを交換すると、新しいディスクに再構築されたデータが書き込まれます。ボリュームの中で一番少ない容量のディスクに、ディスクの総数から 1 を引いた数を掛けたものが総容量となります。例えば、4 台の同一容量のディスクがインストールされている場合、ディスク 3 台分の容量がボリューム全体の容量となります。

Flex-RAID に変更する

ReadyNAS は、デフォルトは X-RAID を使用します。Flex-RAID に変更するには、工場出荷時の状態にリセットし、RAIDar から Flex-RAID を選びます。工場出荷時の状態にリセットすると、ReadyNAS のすべてのデータや設定は消去されます。また、このプロセスには数時間かかる場合があります。

➢ **Flex-RAID に変更する：**

1. ReadyNAS の中で重要なデータや設定は、すべてバックアップを取っておいてください。

   ファイルのバックアップに関しては、81 ページの*ファイルのバックアップ*をご覧ください。設定のバックアップに関しては、102 ページの*バックアップと復元の設定*をご覧ください。

2. RAIDar を起動します。

   後から、RAID モードを切り替えるために必要となります。

3. 工場出荷時の状態にリセットします。

   工場出荷時の状態にリセットする方法については、ReadyNAS のハードウェアマニュアルを参照してください。

4. RAIDar に、[設定] ボタンをクリックするよう表示されます。

   これには数分かかる場合があります。

5. 該当する ReadyNAS を選択し、**［設定］** ボタンをクリックします。

   ReadyNAS ボリュームの設定画面が表示されます。

6. **［Flex-RAID］**のラジオボタンを選択します。

   10分以内に選ばない場合、ReadyNASは以前使っていたものと同じモードで再起動します。

7. ［RAID レベルを選択してください］というドロップダウンリストから RAID レベルを選択します。

   ［自動］を選択した場合、ReadyNAS はインストールされているディスク数に基づき、以下のように自動的に RAID レベルを選択します。

インストールされているディスク数	自動的に選択される RAID レベル
1	RAID 1
2	
3	RAID 5
4	

8. ［**初期化の開始**］ボタンをクリックします。

   ボリューム作成を確認するダイアログボックスが表示されます。

9. [OK] ボタンをクリックします。

   ボリュームがフォーマットされます。ハードディスクドライブのサイズにより、フォーマットにはかなりの時間がかかる場合があります。

10. (オプション) バックアップしたデータと設定を再フォーマットされたディスクに復元します。

    ファイルの復元に関する詳細は、89 ページの*バックアップデータの復元*を参照してください。設定の復元に関する詳細は、102 ページの*バックアップと復元の設定*を参照してください。

ボリュームの作成

最大 4 つのデータボリュームを作成することができます。各ディスクには 2 つのデータパーティションを設けることができます。

➢ **ボリュームを作成する：**

1. FrontView のメインメニューから［**ボリューム**］**>**［**ボリューム設定**］を選択します。
2. ［**ボリュームの追加**］というタブをクリックします。
3. 新しいボリュームを構成するディスクをチェックボックスで選択します。
4. ［RAID レベルの選択］ドロップダウンリストから RAID レベルを選択します。
5. ［スナップショット用のスペースの確保］というドロップダウンリストで、スナップショットのために残しておく容量を選択します。

   スナップショットとは、ある時間におけるボリューム内のファイルの読取専用コピーです。ボリュームは、ある時間以降の変更情報を、ボリューム内の別の場所に保存しています。変更情報の容量が、あらかじめ確保された容量を上回る場合、ボリュームはスナップショットの保存を停止します。

   ReadyNAS Duo はスナップショット機能に対応していません。

6. ボリュームサイズを指定する項目で、新しいボリュームサイズを入力します。

   すでに表示されているものよりも小さいサイズを入力することもできます。

7. ［**適用**］ボタンをクリックすると再起動を確認するメッセージが表示され、

   ReadyNAS が再起動します。ボリュームが作成されると、メールが送信されます。

ボリュームにディスクを追加

ボリュームにディスクを追加するには、ボリュームを削除してから、追加のディスクにボリュームを再度作成する必要があります。

➢ **ボリュームにディスクを追加する：**

1. ボリューム内のデータをバックアップします。

   詳しくは 81 ページの *ファイルのバックアップ*をご覧ください。

2. FrontView のメインメニューから［**ボリューム**］>［**ボリューム設定**］を選択します。
3. 削除するボリュームのタブをクリックします。

   ボリュームが 1 つしかない場合は、ボリューム C と呼ばれています。

4. ［**ボリュームの削除**］をクリックします。

   削除が始まるとメールが送信され、削除が完了するともう一度メールが送信されます。

5. 新しいディスクをインストールします。

   互換性のあるディスクについては Web サイト (*http://www.readynas.com/ja/?page_id=82*) でご確認ください。

   パフォーマンス向上のために、同じメーカー、型番、サイズのディスクをご利用いただくことを推奨します。異なるサイズのディスクを使用する場合、ReadyNAS は一番小さいサイズのディスクに合わせて、すべてを同じサイズとして扱います。例えば、1TB のディスクを 3 台と、500GB のディスクを 1 台インストールした場合、すべてのディスクが 500GB として扱われるため、ファイルが保存できるのは 1.5TB の容量ということになります。

   新しいディスクがインストールされると、メールで通知されます。

6. 追加のディスクを含む新しいボリュームを作成します。

   詳しくは 21 ページの *ボリュームの作成* をご覧ください。

7. バックアップしておいたデータを新しいボリュームに復元します。

   詳しくは 89 ページの*バックアップデータの復元*をご覧ください。

ボリューム内のディスクを交換

ディスクの故障やストレージ容量の拡張のために、ボリューム内のディスクを交換することができます。ボリュームが RAID 1 または RAID 5 を使用するようフォーマットされている場合、データを失うことなくディスクを交換することができます。また、ボリュームの容量を増やしたい場合は、セットに含まれる各ディスクを 1 つずつ交換すると、データの損失を防ぐことができます。ボリュームが RAID 0 を使用するようフォーマットされている場合、データを失うことがないよう、必ずバックアップを取ってください。

- **RAID 1 または RAID 5 ボリュームでのディスク交換 :**

1. ReadyNAS からディスクを取り外します。

   ディスクが取り外され、データは保護されていないことを警告するメールが送られます。

2. 新しいディスクをインストールします。

   互換性のあるディスクについては Web サイト (*http://www.readynas.com/ja/?page_id=82*) でご確認ください。

   パフォーマンス向上のために、同じメーカー、型番、サイズのディスクをご利用いただくことを推奨します。異なるサイズのディスクを使用する場合、ReadyNAS は一番小さいサイズのディスクに合わせて、すべてを同じサイズとして扱います。例えば、1TB のディスクを 3 台と、500GB のディスクを 1 台インストールした場合、すべてのディスクが 500GB として扱われるため、ファイルが保存できるのは 1.5TB の容量ということになります。

   新しいディスクがインストールされると、メールで通知されます。

3. FrontView のメインメニューから［**ボリューム**］>［**ボリューム設定**］を選択します。
4. 新しいディスクの隣にある［**ホットスペア**］を選択します。

   RAIDar はホットスペアとして追加されたディスクを自動的にボリュームに追加します。

- **RAID 0 ボリュームでディスクを交換する :**

1. ボリューム内のデータをバックアップします。

   詳しくは 81 ページの *ファイルのバックアップ*をご覧ください。

2. FrontView のメインメニューから［**ボリューム**］>［**ボリューム設定**］を選択します。
3. 削除するボリュームのタブをクリックします。

   ボリュームが 1 つしかない場合は、ボリューム C と呼ばれています。

4. ［**ボリュームの削除**］をクリックします。

   削除が始まるとメールが送信され、削除が完了するともう一度メールが送信されます。

5. ReadyNAS からディスクを取り外します。

   ディスクが取り外され、データは保護されていないことを警告するメールが送られます。

6. 新しいディスクをインストールします。

   互換性のあるディスクについては Web サイト (*http://www.readynas.com/ja/?page_id=82*) でご確認ください。

   パフォーマンス向上のために、同じメーカー、型番、サイズのディスクをご利用いただくことを推奨します。異なるサイズのディスクを使用する場合、ReadyNAS は一番小さいサイズのディスクに合わせて、すべてを同じサイズとして扱います。例えば、1TB のディスクを 3 台と、500GB のディスクを 1 台インストールした場合、すべてのディスクが 500GB として扱われるため、ファイルが保存できるのは 1.5TB の容量ということになります。

   新しいディスクがインストールされると、メールで通知されます。

7. 追加のディスクを含む新しいボリュームを作成します。

   詳しくは 21 ページの *ボリュームの作成* をご覧ください。

8. バックアップしておいたデータを新しいボリュームに復元します。

USB 機器を使用する

ディスクドライブやデジタルカメラなどの USB 機器を、ReadyNAS の USB ポートに接続することができます。接続した機器をフォーマットし、その内容を ReadyNAS にコピーしたり、他のユーザからデータにアクセスできるようになります。ここでは、フォーマット方法とコンテンツのコピー方法について説明しています。詳しくは 41 ページの *ファイルの保存* をご覧ください。

一度 USB 機器のオプションを設定すると、切断後に再接続しても、前回の設定が記憶されています。

USB 機器は以下の形式でフォーマットされている必要があります。

- FAT32
- NTFS
- EXT2
- EXT3

USB 機器の管理

USB 機器を ReadyNAS に接続すると、フォーマットしたり、確認したり、ファイルシステムをチェックすることができます。

➢ **USB 機器を管理する：**

1. USB 機器を ReadyNAS の USB ポートに接続します。
2. FrontView のメインメニューから［**ボリューム**］>［**USB ストレージ**］を選択します。
3. デバイスの右側にあるドロップダウンメニューで、いずれかのオプションを選択します。
   - **ロケート**：USB 機器の LED ライトが点滅し、機器の確認がしやすくなります。
   - **ファイルシステムチェック**：USB 機器のファイルシステムに問題がないかどうか確認します。
   - **FAT32 でフォーマット**：USB 機器を FAT32 でフォーマットし、既存のデータをすべて消去します。FAT32 は Windows、Linux、Unix の新しい形式で、1 つのファイルサイズの上限は 4GB となります。

     EXT3 でフォーマット：USB 機器を EXT3 でフォーマットし、既存のデータをすべて消去します。EXT3 は Linux および一部のネットワーク機器向けで、ファイルの所有者情報を維持します。
   - **切断**：USB 機器の切断を準備します。この操作を行うと、機器への書込キャッシュのデータをすべて書き出し、データの損失がないようにします。
4. ［**実行**］をクリックします。

USB 機器の内容を自動的にコピーする

USB 機器の接続時に、データを ReadyNAS にコピーすることができます。例えば、デジタルカメラからの画像や、MP3 プレーヤーからの音楽をコピーすることができます。

以前コピーされたファイルが上書きされるのを防ぐため、ファイルはコピー時の日付と時刻の名前のフォルダに保存されます。

➢ **USB 機器の内容を自動的にコピーするよう設定する：**

1. USB 機器を ReadyNAS の USB ポートに接続します。
2. FrontView のメインメニューから［**ボリューム**］**>**［**USB ストレージ**］を選択します。
3. USB フラッシュデバイスオプションで［**USB フラッシュが検出されたら、自動的に次の場所へコピーする**］というチェックボックスを選択します。
4. ファイルをコピーする場所を指定する：
   - ［共有］のドロップダウンリストから、共有の名前を選択します。
   - ［パス］の欄にパスの名前を入力します。

   例えば、media 共有の［Picture］フォルダにある［Vacation］というフォルダにファイルをコピーするには、［共有］のドロップダウンリストから［**media**］を**選択し**、［パス］の欄に **Pictures/Vacation** と入力します。
5. ［所有者の権限でコピーする］という欄で、ReadyNAS でコピーしたファイルを所有するユーザの名前を入力します。

   デフォルトの所有者は管理者です。
6. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ファイルの保護

3

ユーザーが ReadyNAS 上のファイルにアクセスする前に、ファイルを保護するためのセキュリティモードを選択する必要があります。選択するモードにより、ファイルにアクセスできるユーザを指定する必要があります。

この章には次の内容が含まれます。

- *セキュリティモードの選択*
- *ユーザとグループの管理*
- *管理者パスワードの変更と復元*

セキュリティモードの選択

ReadyNAS Duo は、ユーザセキュリティモードにのみ対応しています。

ReadyNAS NV+ および 1100 は共有上のファイルを保護するため、最大 3 つのセキュリティモードに対応しています。

- **共有モード**: このセキュリティモードは、パスワードでデータを保護するか、しないかの 2 種類のセキュリティを選択できます。パスワードで保護しない場合、誰でもアクセスすることができます。パスワードで保護する場合、パスワードを知っているユーザーのみアクセスすることができます Windows 7 以降、および Max OS X v.10 ではこのモードは対応していないため、NETGEAR は共有モードでの使用を推奨していません。またこのモードは、ReadyNAS NV+ および 1100 の一部のバージョンでのみご利用可能です。
- **ユーザモード**: このセキュリティモードは、作成できるユーザ数が自由であるほか、それぞれにどの程度のアクセス権限を与えるかを任意に設定することができます。読取専用の権限だけを与えたり、ファイルの読取、作成、変更を許可することもできます。各ユーザは、共有にアクセスする前にパスワードを入力する必要があります。
- **ドメインモード**: このセキュリティモードはユーザモードと似ていますが、ユーザに関する情報は、ローカルネットワーク上の Windows サーバまたは Active Directory サーバを参照します。

ユーザモードは最新版の Windows や Max OS X でサポートさており、高いセキュリティ機能を提供するほか、サーバを必要としないため、ご家庭や小規模なオフィスでご利用いただけます。

セキュリティモードの選択

この手順は、ReadyNAS NV+ および 1100 でのみ適用されます。

➢ **セキュリティモードを選択する：**

1. FrontView メインメニューから、**[セキュリティ] > [セキュリティモード]** を選択します。
2. **[共有]**、**[ユーザ]**、または **[ドメイン]** を選択します。
3. 必要に応じて、ワークグループの名前を入力します。
4. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ユーザモードを選択した場合、ReadyNAS にアクセスする人のアカウントを作成する必要があります。

ドメインサーバの設定

ReadyNAS NV+ または ReadyNAS 1100 が Windows サーバや Active Directory と同じネットワークにある場合、サーバ上のユーザおよびグループ情報を使用することができます。**[信頼できるドメインのユーザ情報を表示する]** というオプションを選択すると、アカウント画面にユーザとグループ情報が表示され、ReadNAS 特有の情報を以下のように追加することができます。

- ユーザおよびグループのユーザクォータを指定します。
- ユーザーのメールアドレスを指定し、ディスククォータに関する情報が取得できるようにします。

サーバに 1,000 人以上のユーザがいる場合、NETGEAR はドメインモードの使用を推奨しません。

この手順は、ReadyNAS NV+ および 1100 でのみ適用されます。

➢ **ドメインサーバの設定：**

1. FrontView メインメニューから、[セキュリティ] > [セキュリティモード] を選択し、[ドメイン] ラジオボタンを選択します。
2. **[ドメインタイプ]** のドロップダウンリストから［**ADS** (Active Directory server)］または［**Domain**］を選択します。
3. ドメイン名を入力します。
4. ADS を選択した場合、認証レルム (Realm) と新しいオブジェクトの OU を入力してください。

   ネスト化された OU をカンマで区切って指定してください。最低レベルの OU を先に入力します。
5. (オプション) ReadyNAS がドメインコントローラの IP アドレスを自動的に認識するようにするには、[ドメインコントローラ] の**「自動検出」**チェックボックスを選択します。

   自動検出に失敗した場合は、この欄に IP アドレスを入力してください。
6. ドメインの管理者名とパスワードを入力します
7. (オプション) アカウント画面でサーバからのユーザを表示するには、**[信頼できるドメインのユーザ情報を表示します。・・・]** のチェックボックスを選択します。

   ユーザ数が多い場合は、このチェックボックスのチェックを外し、アカウント画面を表示する際に FrontView の遅延を避けることをお勧めします。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ユーザとグループの管理

ユーザセキュリティモードを選択すると、ユーザアカウントを設定することができます。ReadyNAS へのアクセスを許可する各ユーザに対し、ユーザアカウントを作成します。共有を作成する際は、これらのアカウントを使ってファイルにアクセスできるユーザを指定します。

多数のユーザーを効率的に管理したい場合は、グループを作成します。グループに追加するユーザの数に制限はありません。また、1 人のユーザが複数のグループに属することもできます。特定のユーザに対して、複数の共有への同じアクセス権限を頻繁に付与する場合は、これらのユーザだけのグループを作成してください。

各ユーザにはプライベートホーム共有があり、それぞれが個人的なファイルを保存することができます。公開共有とは異なり、プライベートホーム共有はユーザー名と同じ名前が付けられており、そのユーザーと ReadyNAS の管理者のみがアクセスすることができます。公開共有のみを使用したい場合は、プライベートホーム共有を無効にすることができます。

ユーザの管理

FrontView では、新しいユーザの追加、既存ユーザの変更、ユーザのプライベートホーム共有の使い方について知ることができます。

ユーザの追加

［ユーザの追加］画面で、一度に最大 5 人までのユーザを追加することができます。

➢ **ユーザを追加する**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］ > ［アカウント管理］**を選択します。
2. **［ユーザの追加］**ボタンをクリックします。
3. 各ユーザに対し、次の手順で設定を行います。
   a. ユーザ名を入力します。

      これは、ユーザのプライベートホーム共有の名前でもあります。

   b. (オプション) 通知を受け取りたい場合は、ユーザのメールアドレスを入力します。

      アカウントが作成された時、およびデータクォータに達した時に、通知が送られてきます。

   c. (オプション) 特定のユーザ ID (UID) を指定したい場合は、UID を入力します。

      NFS を通してユーザ個人のプライベートホーム共有に接続しようとする場合、UID が必要となります。UID を入力しないと、自動的に生成されます。

   d. ユーザのプライマリグループを選択してください。

      グループの管理画面で、ユーザを他のグループに追加することができます。詳しくは 35 ページの *グループ管理* をご覧ください。

e. ユーザパスワードを入力します。

ユーザが自分でパスワードを変更できるようにするには、32 ページの*ユーザパスワードの管理*をご覧ください。

f. (オプション) ユーザがすべての ReadyNAS の共有にコピーできるデータの量を制限したい場合は、クォータを入力します。

このクォータは、ReadyNAS のすべての共有に適用されます。例えば、ユーザが 400MB 分のファイルを media 共有にコピーし、100MB 分のファイルをユーザのプライベートホーム共有にコピーした場合、合計の 500MB がクォータの一部としてカウントされます。

メールアドレスを指定した場合、共有内のデータ量がクォータに近づくとメールが送信されます。

4. **［適用］**ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

ユーザ名、パスワード、メールアドレス、クォータの変更

ユーザを作成した後、ユーザ名、パスワード、メールアドレス、クォータを変更することができます。

➢ **ユーザ名、パスワード、メールアドレス、クォータを変更する：**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］> ［アカウント管理］**を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから **［ユーザ管理］**を選択してください。
3. **［すべて］**のタブをクリックします。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - ユーザの名前を変更するには、［名前］の欄を編集します。

     ユーザの名前は、その名前が使われる時に更新されます。ユーザのプライベートホーム共有の名前も同様に変更されます。
   - ユーザのメールアドレスを変更するには、［メール］欄を変更します。

     アカウントが作成された時、およびデータクォータに達した時に、通知が送られてきます。
   - ユーザのパスワードを変更するには、［パスワード］欄を編集します。

     ユーザが自分でパスワードを変更できるようにするには、32 ページの*ユーザパスワードの管理*をご覧ください。
   - ユーザが ReadyNAS の共有にコピーできるデータの総量を制限したい場合は、［クォータ］欄に入力します。

     このクォータは、ReadyNAS のすべての共有に適用されます。例えば、ユーザが 400MB 分のファイルを media 共有にコピーし、100MB 分のファイルをユーザのプライベートホーム共有にコピーした場合、合計の 500MB がクォータの一部としてカウントされます。

5. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ユーザパスワードの管理

ユーザに自分のパスワードを設定させることができます。ReadyNAS の管理者は、常に他のユーザのパスワードを変更することができます。

- **ユーザが自分のパスワードを変更できるようにする：**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］> ［アカウント管理］**を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから**［環境設定］**を選択してください。
3. ［ユーザが自分のパスワードを変更することを許可する］というドロップダウンリストで、**［有効］**を選択します。
4. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

- **ユーザとしてパスワードを変更する：**

1. Web ブラウザで http://<NAS_IP_address>/shares にアクセスします。

   <NAS_IP_address> の部分は ReadyNAS の IP アドレスです。

   例えば、IP アドレスが 10.1.10.102 の場合、http://10.1.10.102/shares/ と入力します。
2. 指示があれば、ユーザ名とパスワードを入力してください。
3. **［パスワード］**をクリックします。
4. 現在のパスワードを入力し、新しいパスワードを 2 箇所に入力します。
5. **［パスワードの変更］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

プライベートホーム共有のカスタマイズ

公開共有のみを使用したい場合は、プライベートホーム共有を無効にすることもできます。プライベートホーム共有を使うと、アイテムへのアクセス方法、作成場所、CIFS ファイル共有プロトコル対応のネットワーク機器から、ごみ箱を操作できるようにする、ディスククォータについてユーザに通知を出すタイミングを知らせる、などの機能が有効になります。

プライベートホーム共有を無効にする

ユーザとグループを使って公開共有へのアクセス制御を行いたいが、プライベートホーム共有を使用したくない場合、ユーザのプライベートホーム共有画面へのアクセスを禁止することができます。

➢ **ユーザのプライベートホーム共有へのアクセスを禁止する：**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］> ［アカウント管理］**を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから**［環境設定］**を選択してください。
3. ［ユーザのプライベートホーム共有］というドロップダウンリストから、**［無効］**を選択してください。

   プライベートホーム共有を無効にしてもファイルは消去されないため、再度有効にした場合は、ユーザはこれらのファイルにアクセスすることができます。
4. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

新しいプライベートホーム共有の作成場所を選ぶ

ReadyNAS に外部ドライブを接続している、または Flex-RAID を使ってボリュームを管理している場合、ReadyNAS には複数のボリュームが含まれます。どのボリュームに新しいユーザのユーザディレクトリを作成するかを選択することができます。

➢ **新しいプライベートホーム共有の作成場所を選ぶ：**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］> ［ユーザとグループアカウント］**を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから**［環境設定］**を選択してください。
3. ［新規ユーザのデフォルトのホームボリューム］のドロップダウンリストから、ボリュームを選択します。

   新規ユーザを作成する際、プライベートホーム共有はこのボリュームに作成されます。既存のユーザのプライベートホーム共有は、元にあった場所に維持されます。
4. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

プライベートホーム共有へのアクセスの管理

CIFS と AFP では、プロトコルが有効であれば自動的にプライベートホーム共有が利用可能になります。また、NFS や FTP でもプライベートホーム共有にアクセスできるように設定できます。

➢ **プライベートホーム共有へのアクセスを管理する：**

1. FrontView のメインメニューから、**[セキュリティ] > [ユーザとグループアカウント]** を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから **[環境設定]** を選択してください。
3. (オプション) ユーザが NFS でプライベートホーム共有にアクセスできるようにするには、[NFS でホーム共有をエクスポートする] のドロップダウンリストから **[有効]** を選択してください。

   NFS からプライベートホーム共有にアクセスする場合、ユーザ名とパスワードは不要なため、プライベートホーム共有は安全ではありません。
4. (オプション) ユーザが FTP でプライベートホーム共有にアクセスできるようにするには、[ホーム共有を FTP で利用可能にする] のドロップダウンリストから **[有効]** を選択してください。
5. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

プライベートホーム共有のごみ箱を使う

ユーザが削除したファイルをすぐに完全に削除するか、または共有のごみ箱に入れておくかを指定します。また、ごみ箱の中身が永久に削除されるタイミングを決定することもできます。

このオプションは、ネットワーク接続機器が CIFS ファイル共有プロトコルを使用している場合のみ有効です。

➢ **プライベートホーム共有のごみ箱を使う：**

1. FrontView のメインメニューから、**[セキュリティ] > [ユーザとグループアカウント]** を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから **[環境設定]** を選択してください。
3. [プライベートなホーム共有のごみ箱] のドロップダウンリストから **[有効]** を選択します。
4. (オプション) 何日もごみ箱に入っているファイルを自動的に削除するには、[ごみ箱にファイルを保存する日数] の欄に日数を入力します。
5. (オプション) ごみ箱の容量が一定サイズに達したときに自動的にファイルを削除するには、[ごみ箱の容量の上限] (MB) の欄でごみ箱の容量を MB で指定してください。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ディスククォータについてユーザに通知する

ユーザが ReadyNAS の共有にコピーできるデータの合計数が残り少なくなった時に、ReadyNAS からユーザに通知が送られるよう設定することができます。

メールアドレスを設定してある場合のみ、通知を受け取ることができます。

➢ **ディスククォータに関する通知のタイミングを選択する：**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］> ［アカウント管理］**を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから **［環境設定］**を選択してください。
3. ［警告を出すディスク使用量］というドロップダウンメニューから、割合を選択します。
4. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

グループ管理

FrontView では、新規グループを追加したり、既存のグループを編集したり、グループにユーザを追加したりできます。

グループの追加

［グループの追加］画面で、一度に最大 5 つまでグループを追加することができます。

➢ **グループを追加する：**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］> ［アカウント管理］**を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから **［グループ管理］**を選択してください。
3. **［グループの追加］**ボタンをクリックします。
4. 各グループに対し、次の手順で設定を行います。
   a. グループ名を入力します。
   b. (オプション) 特定のグループ ID (GID) を指定したい場合は、GID を入力します。

      NFS を通してユーザ個人のプライベートホーム共有に接続しようとする場合、GID が必要となります。GID を入力しないと、自動的に生成されます。

   c. (オプション) グループのプライマリユーザがすべての ReadyNAS の共有にコピーできるデータの量を制限したい場合は、クォータを入力します。

      クォータに達すると、グループのユーザと ReadyNAS の管理者に対しメールが送信されます。
5. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

グループのユーザの管理

FrontView を使い、グループ内のユーザを管理することができます。

➢ **グループのユーザを管理する：**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］> ［アカウント管理］**を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから **［グループ管理］**を選択してください。
3. **［すべて］**のタブをクリックします。
4. グループ名の隣の［セカンダリグループメンバー］の欄で、ユーザ名のリストを編集します。

   ユーザ名はカンマで区切ってください。
5. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

   間違ったユーザ名を入力すると、FrontView はユーザが追加されていないことを告げる警告メッセージを表示します。

グループ名またはクォータの変更

グループに割り当てる名前やディスククォータを変更することができます。

➢ **グループ名またはクォータを変更する：**

1. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］> ［アカウント管理］**を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから **［グループ管理］**を選択してください。
3. **［すべて］**のタブをクリックします。
4. (オプション) グループの名前を変更するには、［名前］の欄を編集します。
5. (オプション) グループのユーザが ReadyNAS の共有にコピーできるデータの総量を制限したい場合は、［クォータ］の欄に入力します。
6. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ユーザのインポートとエクスポート

ReadyNAS では、ユーザとグループに関する情報をエクスポートしたり、インポートしたりすることができます。1 台の ReadyNAS から別の ReadyNAS にユーザやグループを移動したい時に便利です。一同に多数のユーザやグループを作成する必要がある場合、すべてのユーザとグループの情報が含まれたテキストファイルを作成し、これをインポートすることができます。

ユーザに関しては、各ユーザについて以下の情報を含むファイルをエクスポートします。

- ユーザ名
- パスワード
- プライマリグループ
- メールアドレス
- ユーザ ID
- クォータ

グループに関しては、各グループについて以下の情報を含むファイルをエクスポートします。

- グループ名
- グループ ID
- クォータ
- メンバー名のリスト

ユーザとグループのエクスポート

➢ **ユーザをエクスポートする：**

1. FrontView のメインメニューから、[**セキュリティ**] > [**アカウント管理**] を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから [**ユーザリストのエクスポート**] を選択してください。
3. [**ユーザリストの送信**] をクリックします。

   ユーザリストは、Web ブラウザのダウンロードフォルダに保存されます。

➢ **グループをエクスポートする：**

1. FrontView のメインメニューから、[**セキュリティ**] > [**アカウント管理**] を選択します。
2. 画面上方のドロップダウンメニューから [**グループリストのエクスポート**] を選択してください。
3. [**グループリストの送信**] をクリックします。

   グループリストは、Web ブラウザのダウンロードフォルダに保存されます。

ユーザとグループファイルの作成

テキストエディタでユーザとグループのリストを作成し、これを ReadyNAS にインポートすることができます。ユーザやグループが多い場合には便利な機能です。

ファイルの各行は個別ユーザやグループを示し、［ユーザの追加］や［グループの追加］画面で使われている欄と同じ内容が含まれます。各欄はカンマで区切り、カンマ前後のスペースは無視されます。空欄があると、デフォルトの値が使われます。

ユーザテキストファイル

ユーザについては、各欄に次の情報を含みます。

<user_name>, <password>, <primary_group_ID>, <email_address>, <user_ID>, <quota>

ユーザ名とパスワードは必須、その他の欄はオプションです。

例えば、次のような行を入力すると、ユーザ名は fred、パスワードは rock45 、メールアドレスは fred@example.com、クォータは 10Mb、プライマリグループ ID とユーザ ID はデフォルトのユーザが作成されます。

fred, rock45, , fred@example.com, , 10

グループテキストファイル

グループについては、各欄に次の情報を含みます。

<group_name>, <group_ID>, <quota>, <user_1>:<user_2>:<user_3>...

グループ名は必須、その他の欄はオプションです。ユーザ名はカンマではなく、コロンで区切ります。

例えば、次のような行を入力すると、グループ名は marketing、メンバーは maria、fred、sam の 3 人で、グループ ID とクォータは既定値となります。

marketing, , , maria:fred:sam

ユーザとグループのインポート

➢ **ユーザをインポートする：**

1. インポートするユーザをカンマで区切ってリストにしたテキストファイルを作成します。
2. FrontView のメインメニューから、**［セキュリティ］＞［アカウント管理］**を選択します。
3. 画面上方のドロップダウンメニューから**［ユーザリストのインポート］**を選択してください。
4. **［参照］**をクリックします。

   ダイアログボックスが表示されます。
5. ファイルを選択し、**［開く］**ボタンをクリックします。

   ダイアログボックスが閉じます。

6. ［**ユーザのインポート**］ボタンをクリックします。

   指定されたユーザがユーザリストに追加されます。

➢ **グループをインポートする：**

1. インポートするグループをカンマで区切ってリストにしたテキストファイルを作成します。
2. FrontView のメインメニューから、［**セキュリティ**］>［**アカウント管理**］を選択します。
3. 画面上方のドロップダウンメニューから［**グループリストのインポート**］を選択してください。
4. ［**参照**］をクリックします。

   ダイアログボックスが表示されます。

5. ファイルを選択し、［**開く**］ボタンをクリックします。

   ダイアログボックスが閉じます。

6. ［**グループのインポート**］ボタンをクリックします。

   指定されたグループがグループリストに追加されます。

管理者パスワードの変更と復元

FrontView を使用する前に入力するパスワードは、変更することができます。パスワードを忘れた場合に使用するセキュリティの質問を選択することもできます。パスワードを忘れた場合、セキュリティの質問に答えるページにアクセスしてください。質問に正しく答えると、指定されたメールアドレスに新しいパスワードが送られてきます。

パスワードを忘れ、セキュリティの質問に答えた場合、ReadyNAS の OS 再インストールを行い、パスワードをリセットしてください。リセットすると、ReadyNAS のすべての設定が初期設定に戻りますが、ファイルは消去されません。詳しくは、ご利用の ReadyNAS のハードウェアマニュアルをご覧ください。

- **管理者パスワードを変更する：**

  1. FrontView メインメニューから、**［セキュリティ］> ［管理者パスワード］**を選択します。
  2. ［新しい管理者用パスワード］の欄で、新しいパスワードを入力します。
  3. ［新しい管理者パスワードの確認］の欄にも、新しいパスワードを入力します。
  4. セキュリティの質問と回答を変更したい場合は、［パスワード復元に用いる質問］の欄に新しい質問を、［パスワード復元に用いる回答］欄には新しい回答を入力してください。
  5. セキュリティの質問に答えた後にパスワードが送信されるメールアドレスを変更したい場合、［パスワード復元に用いるメールアドレス］の欄に新しいメールアドレスを入力してください。

     後からパスワードを復元する場合、ここで入力したメールアドレスを入力する必要があります。
  6. **［適用］**ボタンをクリックします。

     設定が保存されます。

- **管理者パスワードを復元する：**

  1. Web ブラウザで http://<NAS_IP_address>password_recovery にアクセスします。

     ここでの <NAS_IP_address> は、ご利用の ReadyNAS の IP アドレスです。例えば、IP アドレスが 10.1.10.103 の場合、http://10.1.10.103/password_recovery と入力します。
  2. パスワードを設定した際に入力したメールアドレスを入力します。

     大文字と小文字は区別されます。
  3. セキュリティの質問に対する回答を入力してください。

     大文字と小文字は区別されます。
  4. **［パスワードをリセットしメールする］**をクリックします。

     正しいメールアドレスと回答を入力すると、指定のメールアドレスに新しいパスワードが送られてきます。

     正しいメールアドレスと回答を忘れてしまった場合は、ReadyNAS の OS を再インストールする必要があります。ReadyNAS の設定は初期設定にリセットされますが、保存されたファイルは消去されません。詳しくは、ご利用の ReadyNAS のハードウェアマニュアルをご覧ください。

ファイルの保存

4

この章では、ユーザが ReadyNAS にファイルを保存するための共有の作成方法、共有へのアクセス方法、アクセスできるユーザの設定、その他のオプションなどについて説明しています。また、ユーザが共有にアクセスする方法についても説明しています。

この章には次の内容が含まれます。

- *共有の基本概念*
- *ファイル共有プロトコルの管理*
- *共有を作成する*
- *共有アクセスの管理*
- *共有のオプション設定*
- *共有にアクセスする*

共有の基本概念

ReadyNAS ストレージシステムのボリュームは、フォルダやディレクトリに似た共有に分けられます。

データの管理

共有は、データをグループごとに分ける方法です。データは種類別に分けることができます。例 :

- 写真
- 音楽
- ビデオ
- ドキュメント

また、ユーザ別に分けることもできます。例 :

- トム
- リック
- メアリー

企業内であれば、部署によって分けることもできます。例 :

- 経理部
- 営業部
- 人事部

こうした分類を組み合わせたり、自分だけの分類を作成することもできます。

ReadyNAS ストレージシステムには、デフォルトの共有が 2 つあります。

- backup
- media

必要に応じて、これらの共有も削除したり、名前を変更したりすることができます。ご自身のデータを整理するために、他の共有を作成することもできます。

ファイル共有プロトコル

共有へは、ネットワーク経由でアクセスすることができます。ReadyNAS に保存されたデータへのアクセスは、データ転送を処理するファイル共有プロトコルによって管理されます。ネットワーク接続機器がサポートするファイル共有プロトコルが ReadyNAS の共有で有効になっている場合、ReadyNAS の共有に他のネットワーク接続機器 (ノート PC やタブレットなど) からアクセスできます。共有は複数のファイル共有プロトコルに対して有効にすることができます。

下表は、ReadyNAS がサポートしているファイル共有プロトコルを示しています。

表 2. 対応可能なファイル共有プロトコル

プロトコル	説明	推奨
CIFS (Common Internet File Service)	主にマイクロソフトの Windows コンピュータ、および一部のアップルの Mac OS X コンピュータで使われます。このプロトコルがデフォルトで有効になっています。SMB (Server Message Block) と呼ばれることもあります。	ReadyNAS に Windows からアクセスする場合は、このプロトコルを有効にします。
NFS (Network File Service)	Linux および Unix で使われます。ReadyNAS は、UDP および TCP で NFS v3 をサポートしています。	ReadyNAS に Linux および Unix からアクセスする場合、このプロトコルを有効にします。
AFP (Apple File Protocol)	Mac OS 9 および Mac OS X コンピュータで使われます。ReadyNAS は AFP 3.2 をサポートしています。	ReadyNAS に Mac OS 9 および OS X からアクセスする場合、このプロトコルを有効にします。ただし、Windows と Mac が混在する環境では、CIFS のみを使用することを推奨します。
FTP (File Transfer Protocol) および FTPS (FTP with SSL encryption)	ファイルのアップロードやダウンロードサイトで一般的に用いられているプロトコルです。FTPS は FTP よりも安全です。	ユーザが FTP を使って ReadyNAS にアクセスする場合は、このプロトコルを有効にします。
HTTP (Hypertext Transfer Protocol) および HTTPS (HTTP with SSL encryption)	インターネットで使われます。HTTPS は HTTP よりも安全です。	Web ブラウザを使って外部の機器 (スマートフォンやタブレットコンピュータを含む) から ReadyNAS にアクセスする場合、このプロトコルを有効にします。 HTTPS はデフォルトで有効になっています。FrontView は ReadyNAS を管理するために HTTPS を使用しているため、無効にできません。
rsync	Unix および Linux で一般的に使われている差分バックアップのためのプロトコルです。	ユーザが rsync に対応しているデバイスから ReadyNAS にアクセスする場合、このプロトコルを有効にします。

ユーザが共有にアクセスすると、それぞれのコンピュータにはハードディスクのように表示されます。ユーザは、与えられているアクセス権限やプロトコルの組み合わせによって、ハードディスクを使うように共有を操作することができます。

アクセス権限

作成したそれぞれの共有において、有効にしたファイル共有プロトコルのアクセス権限を決定することができます。下表はアクセス権限と、FrontView が各アクセス権限に対して使用するアイコンを示します。

表 3. アクセス権限のオプション

アクセス権限	FrontView アイコン	説明
無効		ユーザーはプロトコルを使用してこの共有にアクセスすることはできません。
リードのみ		ユーザはこのプロトコルを使い、この共有のファイルの読み取りができますが、共有内のファイルを編集したり、ファイルを作成したりすることはできません。
リード / ライト		ユーザはこのプロトコルを使い、この共有ファイルの読み取り、編集、作成を行うことができます。
リードのみ可 (例外あり)		指定されている場合を除き、ユーザはこのプロトコルを使い、この共有のファイルの読み取りのみ可能です。ただし、以下のいずれかの例外が存在します。 • このプロトコルを使用してこの共有にアクセスする場合は読み取り専用であり、特定のホストに対してのみ許可されます。 • このプロトコルを使用してこの共有にアクセスする場合は読み取り専用ですが、少なくとも 1 人または複数の特定ユーザ、もしくはグループに読み取り / 書き込み権限が与えられています。 • このプロトコルを使用してこの共有にアクセスすることはできませんが、少なくとも 1 人または複数の特定ユーザ、もしくはグループに読み取り専用の権限が与えられています。
リード / ライト (例外あり)		指定されている場合を除き、ユーザはこのプロトコルを使用してこの共有でファイルの読み取り、編集、作成を行うことができます。ただし、以下のいずれかの例外が存在します。 • このプロトコルを使用してこの共有にアクセスする場合は読み取り / 書き込み権限がありますが、特定のホストに対してのみ許可されます。 • このプロトコルを使用してこの共有にアクセスする場合は読み取り専用ですが、少なくとも 1 人または複数の特定ユーザ、もしくはグループに読み取り / 書き込み権限が与えられています。 • このプロトコルを使用してこの共有にアクセスすることはできませんが、少なくとも 1 人または複数の特定ユーザ、もしくはグループに読み取り / 書き込みの権限が与えられています。

ファイル共有プロトコルの管理

デフォルトでは、ReadyNAS で CIFS と HTTPS ファイル共有プロトコルが有効になっています。ユーザが別のプロトコルを使って共有にアクセスする場合、標準ファイルプロトコルの画面でこのプロトコルを有効にします。下図を参照してください。

図 3 標準ファイルプロトコルの画面

パフォーマンス向上のために、使用するファイル共有プロトコルのみを有効にしてください。例えば、Linux や Unix を使用して ReadyNAS とのファイルのやり取りをしない場合、NFS ファイル共有プロトコルは無効にします。使用しないファイル共有プロトコルを無効にすることで、システムメモリを最大限に活用し、パフォーマンスを向上させることができます。

- **CIFS ファイル共有プロトコルを有効または無効にする：**

  1. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
  2. ［**CIFS**］のチェックボックスを選択するか、または選択を解除します。
  3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

     変更が保存されます。

- **NFS ファイル共有プロトコルを有効または無効にする：**

  1. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
  2. ［**NFS**］のチェックボックスを選択するか、または選択を解除します。
  3. (オプション) NFS 共有へのアクセスが遅い場合は、NFS に用いるスレッド数を調整してください。
  4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

     変更が保存されます。

- **AFP ファイル共有プロトコルを有効または無効にする：**

  1. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
  2. ［**AFP**］のチェックボックスを選択するか、または選択を解除します。
  3. (オプション) AFP ファイル共有プロトコルを有効にする場合、AFP で使用できる共有をどう通知するかを決定します。
     - Mac OS X v10.1 以前の Mac コンピュータを使って共有にアクセスする場合、［**AFP サービスを AppleTalk 経由で通知する**］を選択します。
     - Mac OS X v10.2 以降の Mac コンピュータを使って共有にアクセスする場合、［**AFP サービスを Bonjour 経由で通知する**］を選択します。
  4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

     変更が保存されます。

➢ **FTP ファイル共有プロトコルを有効または無効にする：**

1. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
2. ［**FTP**］のチェックボックスを選択するか、または選択を解除します。
3. FTP ファイル共有プロトコルを有効にする場合、次のオプションを管理します。
   - **認証モード :** すべての FTP 共有に対して匿名アクセスのみ許可する場合、［認証］モードのドロップダウンリストから**「匿名」**を選択します。この場合、［ユーザ名］の欄で「匿名」を指定し、［パスワード］の欄にメールアドレスを入力してログインします。自分のユーザ名でログインすることはできません。

     自分のユーザ名とパスワードでログインしたい場合、［認証］モードのドロップダウンリストで**「ユーザ」**を選択します。
   - **アップロード再開を許可**：アップロードを完了する前にエラーが出てしまう場合は、［アップロード再開を許可］のドロップダウンリストで**「有効」**を選択します。アップロード中に ReadyNAS との接続が中断された場合、もう一度 FTP 共有にログインしてアップロードを開始し、途切れた箇所からもう一度再開します。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   変更が保存されます。

➢ **HTTP ファイル共有プロトコルを有効または無効にする：**

1. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
2. ［**HTTP**］のチェックボックスを選択するか、または選択を解除します。
3. (オプション) HTTP ファイル共有プロトコルを有効にする場合、次のオプションを管理します。
   - **デフォルトの Web アクセスをこの共有にリダイレクト：**
     http://<ReadyNAS_IP_address> をこの共有に自動的にリダイレクトする場合、このドロップダウンリストから共有を選択します。これは、デフォルトの共有リストページを部外者に見せたくない場合に便利です。共有にリダイレクトするには、共有にインデックスファイル (index.htm や index.html など) を作成し、この共有に対するリードのみ権限の HTTP プロトコルを有効にします。
   - **この共有のログイン認証**：ユーザがこの共有でユーザ作成の Web コンテンツを参照する場合、認証を必要とするかどうかを設定します。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   変更が保存されます。

➢ **Rsync ファイル共有プロトコルを有効または無効にする：**

1. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
2. ［**Rsync**］のチェックボックスを選択するか、または選択を解除します。
3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   変更が保存されます。

共有を作成する

FrontView を使用し、共有を作成することができます。

ユーザまたはドメインセキュリティモードで共有を作成する

ユーザまたはドメインセキュリティモードでは、名前だけの共有を作成することができます。

➢ **ユーザまたはドメインセキュリティモードで共有を作成する：**

1. メインメニューから［**共有**］>［**共有の追加**］を選択します。

   最大 5 つの共有を一度に作成することができます。各共有について、次のステップに従ってください。

   a. ［名前］と［説明］の欄に、共有の名前と説明を入力します。

   b. ゲストとして接続したユーザにアクセスを許可する場合は、［**公開アクセス**］を選択します。

2. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   指定された共有が作成されます。ReadyNAS にアカウントを持つすべての Mac または Windows PC ユーザは、共有上でファイルの読み取り、書き込み、作成を行うことができます。公開アクセスを選択した場合、この共有にゲストとして接続するユーザは誰でも共有上のファイルの読み取り、書き込み、作成を行うことができます。

共有セキュリティモードで共有を作成する

共有セキュリティモードを使うと、名前、パスワードやデータ量の上限などを指定した共有を作成することができます。共有セキュリティモードは、ReadyNAS NV+ および 1100 の一部のバージョンでのみ利用可能です。このセキュリティモードは Windows 7 以降、および Mac OS X v10.6 以降には対応していないため、推奨しておりません。

➢ **共有セキュリティモードで共有を作成する：**

1. メインメニューから［**共有**］>［**共有の追加**］を選択します。

   最大 5 つの共有を一度に作成することができます。各共有について、次のステップに従ってください。

   a. ［名前］と［説明］の欄に、共有の名前と説明を入力します。

   b. 共有を安全に保つために、パスワードを入力します。

   ［**パスワード**］の欄を空白にすると、誰でもパスワードを入力せずに共有にアクセスできるようになります。

   c. 共有に保存できるデータ量を制限するには、クォータを入力します。

   共有に保存されたデータの量がクォータに近づくと、ReadyNAS の管理者に警告メールが送られます。

   ［クォータ］をゼロに設定すると、クォータは制限されません。

2. ［適用］ボタンをクリックします。

   指定された共有が作成されます。共有のパスワードを持つすべての Mac または Windows PC ユーザは、共有上でファイルの読み取り、書き込み、作成を行うことができます。

共有アクセスの管理

下図に示す FrontView の共有リスト画面で、共有にアクセスできるユーザを選びます。

図 4 共有リストの画面

作成した共有は、デフォルトでは一部のユーザに利用可能となります。ユーザまたはドメインセキュリティモードを利用すると、ReadyNAS でアカウントを持つすべての Windows または Mac ユーザに対して利用可能となります。共有セキュリティモードを利用すると、この共有はパスワードを持つすべてのユーザに対して利用可能となります。

他のユーザの共有を利用可能にするには、共有にアクセスする際にどの機器が多く使用されているかを考慮し、適切なファイル共有プロトコルで共有を利用可能にします。

詳しくは 43 ページの *ファイル共有プロトコル* をご覧ください。

共有は有効になっている各ファイル共有プロトコルに対して異なるアクセス権を設定できます。共有のアクセス権限を変更するには、使用するファイル共有プロトコルの下にあるアイコンをクリックします。ユーザに対して与える権限を指定する場合、次の 3 つの選択肢があります。

- **アクセスなし**: ユーザは共有でファイルの読み取り、書き込み、作成ができません。
- **リードのみ**: ユーザはファイルの読み取りはできますが、書き込みや作成はできません。
- **リード / ライト**: ユーザはファイルの読み取り、書き込み、作成ができます。

詳しくは 44 ページの *アクセス権限* をご覧ください。

ユーザまたはドメインセキュリティモードで共有アクセスを管理する

ユーザまたはドメインセキュリティモードでは、どのユーザが共有にアクセスできるか、どのようなアクセス権限を持つかを指定することができます。30 ページの *ユーザとグループの管理* で説明されている通り、作成したユーザやグループで、誰がアクセスできるかを指定することができます。

ユーザモードで CIFS を使って共有にアクセスできるユーザを選択する

ユーザが CIFS で共有にアクセスする場合、以下のセキュリティが選択できます。

- ReadyNAS が小規模なローカルネットワーク上にあり、ネットワーク上のすべての人を信頼できる場合、ネットワーク上のすべての人に共有へのアクセス権限を付与することができます。
- より高度なセキュリティが必要な場合、ReadyNAS のアカウントを持つユーザのみが共有にアクセスできるようにし、これらのユーザにすべてのアクセス権限を与えることができます。
- より柔軟性の高いセキュリティが必要な場合、共有にアクセスできるユーザや、アクセス権限の種類を指定することができます。
- 最もセキュリティが高いのは、特定のコンピュータからのアクセスのみを許可する方法です。このコンピュータを鍵のかかった部屋に置いておけば、共有にアクセスするために正しいユーザ名とパスワード以外に、部屋への鍵も必要となります。

  コンピュータは、IP アドレス (10.1.10.104 など) で指定します。

➢ **CIFS を使い、誰でも共有にアクセスできるようにする :**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある CIFS のアイコンをクリックします。

   FrontView に CIFS のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。

3. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、アクセス権の種類を選択してください。
4. ［共有のアクセス制限］の欄で、**［ゲストのアクセスを許可する］**というチェックボックスにチェックを入れます。
5. **［適用］**ボタンをクリックします。

   ユーザがゲストとして共有に接続した場合、このユーザは［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限を持ちます。

- **ReadyNAS アカウントを持つすべてのユーザが CIFS を使用して共有にアクセスできるようにする：**

1. FrontView メインメニューから**［共有］>［共有リスト］**を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある CIFS のアイコンをクリックします。

   FrontView に CIFS のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。
3. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、アクセス権の種類を選択してください。
4. **［適用］**ボタンをクリックします。

   ReadyNAS のアカウントを持つユーザは、ユーザ名とパスワードを使って共有にアクセスすることができ、ユーザは［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限を持ちます。

- **CIFS を使って共有にアクセスできるユーザを指定する：**

1. FrontView メインメニューから**［共有］>［共有リスト］**を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある CIFS のアイコンをクリックします。

   FrontView に CIFS のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。
3. 以下のように、どのユーザが共有にアクセスできるかを決定します。
   - 一部のユーザにリード / ライト権限を与え、他のすべてのユーザにリードのみの権限を与えるには、以下の手順で行います。
     a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、**［リードのみ］**を選択します。
     b. ［共有のアクセス制限］の欄で、**［ライト対応ユーザ］**というチェックボックスにチェックを入れます。
     c. ［ライト対応ユーザ］の欄と［ライト対応グループ］の欄で、リード / ライト権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。

- 一部のユーザにリードのみの権限を与え、他のすべてのユーザにリード / ライト権限を与えるには、以下の手順で行います。
  a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから［**リード / ライト**］を選択します。
  b. ［共有のアクセス制限］の欄で、［**リードのみユーザ**］というチェックボックスにチェックを入れます。
  c. ［リードのみユーザ］の欄と［リードのみグループ］の欄で、リードのみのアクセス権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。
- 一部のユーザにリードのみの権限を与え、別のユーザにリード / ライト権限を与え、その他のユーザにはアクセス権限を与えないようにするには、以下の手順で行います。
  a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから［**無効**］を選択します。
  b. ［共有のアクセス制限］の欄で、［**リードのみユーザ**］というチェックボックスにチェックを入れます。
  c. ［リードのみユーザ］の欄と［リードのみグループ］の欄で、リードのみのアクセス権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。
  d. ［**ライト対応ユーザ**］のチェックボックスを選択します。
  e. ［ライト対応ユーザ］の欄と［ライト対応グループ］の欄で、リード / ライト権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。

4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   ［リードのみユーザ］、［リードのみグループ］、［ライト対応ユーザ］、［ライト対応グループ］のいずれかの欄でユーザ名が指定されていると、このユーザは共有に対するアクセス権限があります。これらのどの欄にもユーザ名が指定されていない場合、ユーザには［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限が与えられます。

➢ **CIFS を使って共有にアクセスできるコンピュータを指定する：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］**>**［**共有リスト**］を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある CIFS のアイコンをクリックします。

   FrontView に CIFS のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。

3. ［共有のアクセス制限］の欄で、［**アクセスを許可するホスト**］というチェックボックスにチェックを入れます。
4. アクセス権限を与えるコンピュータの IP アドレスをカンマで区切って入力します。
5. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   他のコンピュータのユーザは、他の欄にユーザ名やグループ名が指定されている場合でも、共有にアクセスすることができません。

ユーザセキュリティモードで AFP を使って共有にアクセスできるユーザを選択する

ユーザが AFP で共有にアクセスする場合、以下のセキュリティが選択できます。

- ReadyNAS が小規模なローカルネットワーク上にあり、ネットワーク上のすべての人を信頼できる場合、ネットワーク上のすべての人に共有へのアクセス権限を付与することができます。
- 柔軟なセキュリティや高いセキュリティが必要な場合、共有にアクセスできるユーザや、アクセス権限の種類を指定することができます。

➢ **AFP を使い、誰でも共有にアクセスできるようにする：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある AFP のアイコンをクリックします。

   FrontView に AFP のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。
3. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、アクセス権の種類を選択してください。
4. ［**共有のアクセス制限**］の欄で、［**ゲストのアクセスを許可する**］というチェックボックスを選択します。
5. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   ユーザがゲストとして共有に接続した場合、このユーザは［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限を持ちます。

➢ **ReadyNAS アカウントを持つすべてのユーザが AFP を使用して共有にアクセスできるようにする：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある AFP のアイコンをクリックします。

   FrontView に AFP のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。
3. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、アクセス権の種類を選択してください。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   ReadyNAS のアカウントを持つユーザは、ユーザ名とパスワードを使って共有にアクセスすることができ、ユーザは［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限を持ちます。

➢ **AFP を使って共有にアクセスできるユーザを指定する：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある AFP のアイコンをクリックします。

   FrontView に AFP のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。
3. 以下のように、どのユーザが共有にアクセスできるかを決定します。
   - 一部のユーザにリード / ライト権限を与え、他のすべてのユーザにリードのみの権限を与えるには、以下の手順で行います。
     a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、［**リードのみ**］を選択します。
     b. ［共有のアクセス］の欄で、［**ライト対応ユーザ**］というチェックボックスにチェックを入れます。
     c. ［ライト対応ユーザ］の欄と［ライト対応グループ］の欄で、リード / ライト権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。
   - 一部のユーザにリードのみの権限を与え、他のすべてのユーザにリード / ライト権限を与えるには、以下の手順で行います。
     a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、［**リード / ライト**］を選択します。
     b. ［共有のアクセス制限］の欄で、［**リードのみユーザ**］を選択します。
     c. ［リードのみユーザ］の欄と［リードのみグループ］の欄で、リードのみのアクセス権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。
   - 一部のユーザにリードのみの権限を与え、別のユーザにリード / ライト権限を与え、その他のユーザにはアクセス権限を与えないようにするには、以下の手順で行います。
     a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、［**無効**］を選択します。
     b. ［共有のアクセス制限］の欄で、［**リードのみユーザ**］というチェックボックスにチェックを入れます。
     c. ［リードのみユーザ］の欄と［リードのみグループ］の欄で、リードのみのアクセス権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。
     d. ［共有のアクセス制限］の欄で、［**ライト対応ユーザ**］というチェックボックスにチェックを入れます。
     e. ［ライト対応ユーザ］の欄と［ライト対応グループ］の欄で、リード / ライト権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   ［リードのみユーザ］、［リードのみグループ］、［ライト対応ユーザ］、［ライト対応グループ］のいずれかの欄でユーザ名が指定されていると、このユーザは共有に対するアクセス権限があります。これらのいずれかの欄でユーザ名が指定されていない場合、ユーザには［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限が与えられます。

ユーザセキュリティモードで NFS を使って共有にアクセスできるユーザを選択する

ユーザが NFS を使って共有にアクセスする場合、どのコンピュータがアクセスできるか、どのようなアクセスが可能であるかを指定することができます。

コンピュータを指定するには、IP アドレス (10.1.10.104 など) を指定します。

➢ **NFS を使って共有にアクセスできるコンピュータを指定する :**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］**>**［**共有リスト**］を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある NFS のアイコンをクリックします。

   FrontView に NFS のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。
3. 以下のように、どのコンピュータが共有にアクセスできるかを決定します。
   - 一部のユーザにリード / ライト権限を与え、他のすべてのユーザにリードのみの権限を与えるには、以下の手順で行います。
     a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、［**リードのみ**］を選択します。
     b. ［共有のアクセス制限］の欄で［**ライト対応ホスト**］のチェックボックスを選択し、リード / ライト権限を与えるコンピュータの IP アドレスを入力します。
   - 一部のコンピュータにリードのみの権限を与え、他のすべてのコンピュータにリード/ ライト権限を与えるには、以下の手順で行います。
     a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから［**リード / ライト**］を選択します。
     b. ［共有のアクセス制限］の欄で［**リードのみホスト**］のチェックボックスを選択し、リードのみの権限を与えるコンピュータの IP アドレスを入力します。
   - 一部のコンピュータにリードのみの権限を与え、別のコンピュータにリード / ライト権限を与え、その他のコンピュータにはアクセス権限を与えないようにするには、以下の手順で行います。
     a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、［**無効**］を選択します。
     b. ［共有のアクセス制限］の欄で［**リードのみホスト**］のチェックボックスを選択し、**リードのみ**の権限を与えるコンピュータの IP アドレスを入力します。
     c. ［共有のアクセス制限］の欄で［**ライト対応ホスト**］のチェックボックスを選択し、リード / ライト権限を与えるコンピュータの IP アドレスを入力します。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   ［リードのみホスト］または［ライト対応ホスト］の欄でコンピュータが指定されている場合、このコンピュータのユーザは共有に対するアクセス権限を持ちます。これらのいずれかの欄でコンピュータが指定されていない場合、このコンピュータのユーザには［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限が与えられます。

ユーザセキュリティモードで FTP を使って共有にアクセスできるユーザを選択する

ユーザが FTP で共有にアクセスする場合、以下のセキュリティが選択できます。

- ReadyNAS が小規模なローカルネットワーク上にあり、ネットワーク上のすべての人を信頼できる場合、ネットワーク上のすべての人に共有への匿名アクセス権限を付与することができます。
- より柔軟性の高いセキュリティが必要な場合、共有にアクセスできるユーザや、アクセス権限の種類を指定することができます。
- 最もセキュリティが高いのは、特定のコンピュータからのアクセスのみを許可する方法です。このコンピュータを鍵のかかった部屋に置いておけば、共有にアクセスするために正しいユーザ名とパスワード以外に、部屋への鍵も必要となります。

  コンピュータは、IP アドレス (10.1.10.104 など) で指定します。

➢ **FTP を使い、誰でも共有に匿名でアクセスできるようにする :**

1. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
2. まだ選択されていない場合は、［**FTP**］のチェックボックスを選択します。
3. ［認証］モードのドロップダウンリストから、**「匿名」**を選択し、[適用] ボタンをクリックします。
4. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
5. 変更を加えたい共有の右側にある FTP/S のアイコンをクリックします。
6. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、アクセス権の種類を選択してください。
7. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   誰でも共有に接続することができ、ユーザは［デフォルトのアクセス］ドロップダウンリストで指定されたアクセス権限を持ちます。

➢ **FTP を使って共有にアクセスできるユーザを指定する :**

1. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
2. まだ選択されていない場合は、［**FTP**］のチェックボックスを選択します。
3. ［認証］モードのドロップダウンリストから、**「ユーザ」**を選択し、[適用] ボタンをクリックします。
4. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
5. 変更を加えたい共有の右側にある FTP/S のアイコンをクリックします。
6. 以下のように、どのコンピュータが共有にアクセスできるかを決定します。
   - 一部のユーザにリード / ライト権限を与え、他のすべてのユーザにリードのみの権限を与えるには、以下の手順で行います。
     a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、［**リードのみ**］を選択します。
     b. ［共有のアクセス制限］の欄で、［**ライト対応ホスト**］というチェックボックスにチェックを入れます。

c. ［ライト対応ユーザ］の欄と［ライト対応グループ］の欄で、リード / ライト権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。

- 一部のユーザにリードのみの権限を与え、他のすべてのユーザにリード / ライト権限を与えるには、以下の手順で行います。

  a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、**［リード / ライト］**を選択します。

  b. ［共有のアクセス制限］の欄で、**［リードのみホスト］**というチェックボックスにチェックを入れます。

  c. ［リードのみユーザ］の欄と［リードのみグループ］の欄で、リード / ライト権限を与えたいユーザとグループの名前を入力します。

- 一部のコンピュータにリードのみの権限を与え、別のコンピュータにリード / ライト権限を与え、その他のコンピュータにはアクセス権限を与えないようにするには、以下の手順で行います。

  a. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、**［無効］**を選択します。

  b. ［共有のアクセス制限］の欄で、**［ライト対応ホスト］**というチェックボックスにチェックを入れます。

  c. ［ライト対応ユーザ］の欄と［ライト対応グループ］の欄で、リード / ライト権限を与えたいコンピュータの IP アドレスを入力します。

  d. ［共有のアクセス制限］の欄で、**［リードのみホスト］**というチェックボックスにチェックを入れます。

  e. ［リードのみユーザ］の欄と［リードのみグループ］の欄で、リード / ライト権限を与えたいコンピュータの IP アドレスを入力します。

7. **［適用］**ボタンをクリックします。

   ［リードのみユーザ］、［リードのみグループ］、［ライト制限ユーザ］、［ライト制限グループ］のいずれかの欄でユーザ名が指定されていると、このユーザは共有に対するアクセス権限があります。これらのどの欄にもユーザ名が指定されていない場合、ユーザには［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限が与えられます。

➢ **FTP を使って共有にアクセスできるコンピュータを選択する：**

1. FrontView メインメニューから **［共有］> ［共有リスト］**を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある FTP/S のアイコンをクリックします。

   FrontView に FTP のアイコンが表示されない場合、ReadyNAS でこのファイル共有プロトコルを有効にする必要があります。詳しくは 45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* をご覧ください。

3. 共有にアクセスできるユーザを指定するには、ユーザーが特定のコンピュータのみを使用していることが前提となります。次の手順に従ってください。

   a. ［共有のアクセス制限］の欄で、**［リードのみホスト］**というチェックボックスにチェックを入れます。

   b. ［リードのみホスト］の欄で、コンピュータの IP アドレスをカンマで区切って入力します。

      他のコンピュータのユーザは、他の欄にユーザ名やグループ名が指定されている場合でも、共有にアクセスすることができません。

4. 共有にアクセスできるユーザを指定するには、ユーザーが特定のコンピュータのみを使用していることが前提となります。次の手順に従ってください。
   a. ［共有のアクセス制限］の欄で、**［ライト対応ホスト］**というチェックボックスにチェックを入れます。
   b. ［ライト対応ホスト］の欄で、コンピュータのネットワークアドレスをカンマで区切って入力します。

      他のコンピュータのユーザは、他の欄にユーザ名やグループ名が指定されている場合でも、共有にアクセスすることができません。
5. **［適用］**ボタンをクリックします。

   ［リードのみホスト］または［ライト対応ホスト］の欄でコンピュータが指定されている場合、このコンピュータのユーザは共有に対するアクセス権限を持ちます。これらのいずれかの欄でコンピュータが指定されていない場合、このコンピュータのユーザは共有にアクセスできません。

ユーザセキュリティモードで HTTP を使って共有にアクセスできるユーザを選択する

ユーザが HTTP で共有にアクセスする場合、以下のセキュリティが選択できます。

- ReadyNAS が小規模なローカルネットワーク上にあり、ネットワーク上のすべての人を信頼できる場合、ネットワーク上のすべての人に共有へのアクセス権限を付与することができます。
- より柔軟性の高いセキュリティが必要な場合、共有にアクセスできるユーザや、アクセス権限の種類を指定することができます。
- 最もセキュリティが高いのは、特定のコンピュータからのアクセスのみを許可する方法です。このコンピュータを鍵のかかった部屋に置いておけば、共有にアクセスするために正しいユーザ名とパスワード以外に、部屋への鍵も必要となります。

  コンピュータは、IP アドレス (10.1.10.104 など) で指定します。

➢ **HTTP を使って共有にアクセスできるユーザを選択する：**

1. FrontView メインメニューから**［共有］>［共有リスト］**を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある HTTP/S のアイコンをクリックします。
3. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、以下の手順でユーザに与えたいアクセスのタイプを選択します。
   - 共有上のファイルの読み取りは可能で、編集や作成を行えないようにするには、ドロップダウンリストから**「リードのみ」**を選択します。
   - ユーザがファイルの読み取り、編集、作成を行えるようにするには、**「リード / ライト」**を選択します。
   - ユーザが HTTP を使って共有にアクセスできないようにするには、**「無効」**を選択します。

4. ［共有のアクセス制限］の欄で、［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定されたアクセス権限を与えたいユーザを選びます。
   - すべてのユーザに［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定された権限を与える場合は、**［アクセスを許可するホスト］**のチェックボックスからチェックを外してください。
   - 一部のユーザにのみ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定されたアクセス権限を与えるには、次の手順で行います。
     a. **［アクセスを許可するホスト］**というチェックボックスを選択します。
     b. 共有へのアクセスを、特定のコンピューターからのみに限定する場合、［アクセスを許可するホスト］の欄に、このコンピュータの IP アドレスをカンマで区切り、入力してください。

        他のコンピュータのユーザは、他の欄にユーザ名やグループ名が指定されている場合でも、共有にアクセスすることができません。

     c. ［アクセスを許可するユーザ］と［アクセスを許可するグループ］の欄に、ユーザ名とグループ名を入力します。
5. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ユーザまたはドメインセキュリティモードで Rsync を使って共有にアクセスできるユーザを選択する

Rsync ファイル共有プロトコルを使い、アクセス権限の決定、特定のユーザやコンピュータのアクセスの制限、共有へのアクセスのパスワード保護などを行うことができます。

➢ **Rsync を使って共有にアクセスできるユーザを選択する：**

1. FrontView メインメニューから**［共有］>［共有リスト］**を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある Rsync のアイコンをクリックします。
3. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、以下の手順でユーザに与えたいアクセスのタイプを選択します。
   - 共有上のファイルの読み取りは可能で、編集や作成を行えないようにするには、**「リードのみ」**を選択します。
   - ユーザがファイルの読み取り、編集、作成を行えるようにするには、**「リード / ライト」**を選択します。
   - ユーザが Rsync を使って共有にアクセスできないようにするには、**「無効」**を選択します。
4. ［共有のアクセス制限］の欄で、［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストで指定されたアクセス権限を与えたいユーザを選ぶには、次の手順で行います。
   - すべてのユーザにアクセス権限を与える場合は、**［アクセスを許可するホスト］**のチェックボックスを解除します。
   - 一部のユーザにだけアクセスを許可するには、**［アクセスを許可するホスト］**のチェックボックスを選択し、ユーザのコンピュータの IP アドレスを入力します。

5. Rsync パスワードオプションの欄で、Rsync の共有アクセスに対するパスワード保護を有効または無効にします。次の手順で行なってください。
   - パスワード保護を有効にするには、**[パスワード保護を有効にする]** のチェックボックスを選択し、少なくとも 1 人の Rsync ユーザ名とパスワードを入力してください。各共有に対し、最大で 2 つの Rsync ユーザ名とパスワードを作成することができます。これらは ReadyNAS のユーザアカウントとはまったく関係ありません。
   - パスワード保護を無効にするには、**[パスワード保護を有効にする]** のチェックボックスを外してください。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

共有セキュリティモードで共有へのアクセスを管理する

共有セキュリティモードで共有にアクセスできるユーザを選ぶには、ユーザに与えるアクセス権限の種類を指定する必要があります。また、特定のコンピュータを使用しているユーザのみが共有にアクセスできるように指定することもできます。

共有セキュリティモードで CIFS、HTTP、または Rsync を利用して共有アクセス権限を管理する

CIFS、HTTP、または Rsync ファイル共有プロトコルを有効にする場合、ユーザに与えるアクセス制限の種類を決定してから、このアクセス権限をすべてのユーザに与えるか、または特定のコンピュータを使用しているユーザにのみ与えるかを決定します。

➢ **CIFS、HTTP、Rsync を利用して共有にアクセスできるコンピュータを選択する :**

1. FrontView メインメニューから **[共有] > [共有リスト]** を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある、ファイル共有プロトコルのアイコンをクリックします。
3. [デフォルトのアクセス] のドロップダウンリストから、以下の手順でユーザに与えたいアクセスのタイプを選択します。
   - ユーザに読み取り専用のアクセス権限を与えるには、**「リードのみ」** を選択します。
   - ユーザに読み取りと書き込みが可能なアクセス権限を与えるには、**「リード / ライト」** を選択します。
   - ユーザが選択されたプロトコルを使って共有にアクセスできないようにするには、**「無効」** を選択します。
4. [共有のアクセス制限] の欄で、[デフォルトのアクセス] のドロップダウンリストで指定されたアクセス権限を与えたいユーザを選びます。
   - すべてのユーザにアクセス権限を与える場合は、**[アクセスを許可するホスト]** のチェックボックスを解除します。
   - 一部のユーザにだけアクセスを許可するには、**[アクセスを許可するホスト]** のチェックボックスを選択し、ユーザのコンピュータの IP アドレスをカンマで区切って入力します。
5. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

共有セキュリティモードで AFP を使って共有にアクセスできるユーザを選択する

共有の AFP ファイル共有プロトコルを有効にする場合、すべてのユーザにどのようなアクセス権限を与えるかを決定します。

➢ **AFP を使って共有にアクセスできるコンピュータを選択する：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある AFP のアイコンをクリックします。
3. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、以下の手順ですべてのユーザに与えたいアクセス権限の種類を選択します。
   - すべてのユーザに読み取り専用のアクセス権限を与えるには、**「リードのみ」**を選択します。
   - すべてのユーザに読み取り、書き込み、作成が可能なアクセス権限を与えるには、**「リード / ライト」**を選択します。
   - すべてのユーザが AFP で共有にアクセスできないようにするには、**「無効」**を選択します。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

共有セキュリティモードで FTP を使って共有にアクセスできるユーザを選択する

FTP または NFS ファイル共有プロトコルを有効にすると、ほとんどのユーザにどのような種類のアクセス権限を与えるかを決定し、次に特定のコンピュータを使用しているユーザが異なるアクセス権限を持つよう設定することができます。

➢ **FTP および NFS を使って共有にアクセスできるコンピュータを選択する：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. 変更を加えたい共有の右側にある、ファイル共有プロトコルのアイコンをクリックします。
3. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、以下の手順で通常のユーザに与えたいアクセス権限の種類を選択します。
   - ユーザに読み取り専用のアクセス権限を与えるには、**「リードのみ」**を選択します。
   - ユーザに読み取りと書き込みができるアクセス権限を与えるには、**「リード / ライト」**を選択します。
   - ユーザがプロトコルで共有にアクセスできないようにするには、**「無効」**を選択します。
4. ［共有のアクセス制限］の欄で、次のように例外設定します。
   - リードのみのアクセス権限を持つコンピュータを指定するには、［**リードのみホスト**］のチェックボックスを選択し、所定の欄に IP アドレスを入力します。
   - リード / ライトのアクセス権限を持つコンピュータを指定するには、［**ライト対応ホスト**］のチェックボックスを選択し、所定の欄に IP アドレスを入力します。
5. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

共有のオプション設定

共有には様々なオプションを設定することができます。例えば、アクセス権限のないユーザに対しては共有が表示されないようにしたり、共有でごみ箱を使えるようにしたり、またはアクセスを最適化するなど、様々な設定が可能です。また、共有内のファイルが破損した場合、これらファイルへのアクセス許可をリセットすることもできます。

共有を隠す

ユーザは共有の中身を知ることはできませんが、Mac OS X の Finder および Windows エクスプローラのサーバリストで名前だけは見ることができます。共有を完全に非表示にしたい場合は、リストに表示されないように設定できます。この場合、完全なパスを知っているユーザだけがこの共有を表示させることができます。

このオプションを選択すると、非表示機能に対応していないファイル共有プロトコル (AFP を含む) は、この共有に対しては無効となります。

- **共有を非表示にする :**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. CIFS のアイコンをクリックします。
3. ［共有表示オプション］の欄で必ず［**・・この共有を非表示にします**］を選択します。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

CIFS 共有のごみ箱を使用する

ユーザが削除したファイルをすぐに完全に削除するか、または共有のごみ箱に入れておくかを指定します。また、ごみ箱の中身が完全に削除されるタイミングを決定することもできます。

CIFS プロトコルを使い、ネットワーク接続機器の共有からファイルを削除すると、このファイルは共有上のごみ箱に移動します。共有のなかで削除されたファイルを確認するには、共有のごみ箱フォルダをご覧ください。

このオプションは、CIFS ファイル共有プロトコルを使用して共有に接続している場合にのみ利用可能です。また、CIFS を使用してアクセスしているプライベートホーム共有にも適用されます。

- **ごみ箱を有効にする :**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. CIFS のアイコンをクリックします。
3. ［ゴミ箱］の欄で、［**ごみ箱を有効にする**］のチェックボックスを選択します。
4. 何日もごみ箱に入っているファイルを自動的に削除するには、［ごみ箱にファイルを保存する日数］の欄に日数を入力します。

5. ごみ箱の容量が一定サイズに達したときに自動的にファイルを削除するには、[ごみ箱の容量制限] (MB) の欄でごみ箱の容量を MB で指定してください。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

CIFS を使ってファイルをローカルでキャッシュする

CIFS で共有を利用する場合、共有のファイルをローカルでキャッシュし、よく使うファイルにすぐにアクセスできるように設定することができます。これは、Oplocks (Opportunistic Locking、便宜的ロック) と呼ばれます。ご利用の共有に、複数のユーザが一度にアクセスすることのできるファイル (QuickBooks データベースなど) が含まれる場合は、このオプションを有効にしないでください。

➢ **CIFS 共有を利用してファイルをローカルでキャッシュする :**

1. FrontView メインメニューから **[共有] > [共有リスト]** を選択します。
2. CIFS のアイコンをクリックします。
3. 便宜的ロックの欄で、**[この共有で Oplock を使用する]** のチェックボックスを選択します。
4. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

NFS を使用した同期を有効にする

NFS サーバへの接続が頻繁に切断されてしまう場合、同期を有効にし、データの紛失を防ぐことができます。同期を有効にすると、NFS クライアントが書き込み要求が終了するのを確認する前に、ディスクに対して次の書き込み要求が行われます。接続が切断されるというトラブルがない場合は、同期を無効にし、データ転送の速度を高めることができます。

➢ **NFS 共有を使用時に同期を有効にする :**

1. FrontView メインメニューから **[共有] > [共有リスト]** を選択します。
2. NFS のアイコンをクリックします。
3. [NFS の詳細設定] の欄で、**[同期モードを有効にする]** にチェックを入れます。
4. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

新規ファイルとフォルダの権限を設定する

新規に作成されたファイルのデフォルトの権限は、所有者や所有者のプライマリグループにはリード / ライト、またその他全員にはリードのみとなっています。新規に作成されたフォルダへの権限は、すべてのユーザに対してリード / ライト権限が与えられます。デフォルトがセキュリティの要件を満たさない場合は、ここで変更することができます。

CIFS や AFP で利用可能な共有について、新規ファイルとフォルダの権限を設定することができます。

FrontView で利用可能なオプションは、ReadyNAS で選択したセキュリティモードにより異なります。

➢ **CIFS の新規ファイルとフォルダの権限を設定する：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. CIFS のアイコンをクリックします。
3. (オプション) ［CIFS の詳細アクセス権］の欄で、［**新しいファイルやフォルダのアクセス権を自動で設定します。**］のチェックボックスを選択します。
4. (オプション) また、［**これよりも厳しい制限を持つ ACL の変更を許可しないでください。**］というチェックボックスを選択します。

   このオプションを使用する際は、十分ご注意ください。ファイルやフォルダへのアクセス権限に予期せぬ変更を加えてしまうことがあります。
5. (オプション) 新しいファイルのグループ許可設定を選択する場合、［グループに許可する権限］と［全てのユーザの権限］というドロップダウンリストで次のように選択します。
   - ［グループに許可する権限］のドロップダウンリストから、ファイルの所有者のプライマリグループのメンバーの権限を選択します。
   - ［全てのユーザの権限］のドロップダウンリストから、ファイルの所有者のプライマリグループのメンバーの権限を選択します。
6. (オプション) 新しいファイルのグループ権限設定を選択するには、［グループの権限］と［個人の権限］のドロップダウンリストを次のように使用します。
   - ［グループに許可する権限］のドロップダウンリストから、ファイルの所有者のプライマリグループのメンバーの権限を選択します。
   - ［全てのユーザの権限］のドロップダウンリストから、ファイルの所有者のプライマリグループのメンバーの権限を選択します。
7. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

➢ **AFP 共有の新規ファイルとフォルダの権限を設定する：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. AFP のアイコンをクリックします。
3. ［AFP の詳細アクセス権］の欄で、［**新しいファイルやフォルダのアクセス権を自動で設定します。・・・**］のチェックボックスを選択します。

4. (オプション) 新しいファイルのグループ許可設定を選択する場合、[グループに許可する権限]と[全てのユーザの権限]というドロップダウンリストで次のように選択します。
   - [グループに許可する権限] のドロップダウンリストから、ファイルの所有者のプライマリグループのメンバーの権限を選択します。
   - [全てのユーザの権限] のドロップダウンリストから、ファイルの所有者のプライマリグループのメンバーの権限を選択します。
5. (オプション) 新しいファイルのグループ権限設定を選択するには、[グループに許可する権限] と [全てのユーザの権限] のドロップダウンリストを次のように使用します。
   - [グループに許可する権限] のドロップダウンリストから、ファイルの所有者のプライマリグループのメンバーの権限を選択します。
   - [全てのユーザの権限] のドロップダウンリストから、ファイルの所有者のプライマリグループのメンバーの権限を選択します。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

名前変更と削除の権限を拡大する

デフォルトでは、ファイルの所有者、つまりファイルを作成した人だけが、このファイルの名前を変更したり、削除したりすることができるようになっています。ただし、共有に対してリード / ライト権限を持つすべてのユーザが共有内のファイルの名前変更や削除を行えるよう設定することができます。

➢ **名前変更と削除の権限を拡大する：**

1. FrontView メインメニューから **[共有] > [共有リスト]** を選択します。
2. 権限を変更したい共有の右側で、プロトコルのアイコンをクリックしてください。
3. **[詳細設定]** タブをクリックします。
4. **[所有者以外にもファイルの名前変更と削除の権限を与える]** というチェックボックスを選択します。
5. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

共有の所有権と権限のリセット

共有の所有権と権限の設定に不具合が起き、ユーザがファイルにアクセスしたり、ファイルを作成できなくなった場合、この共有上のすべてのファイルの所有権と権限をリセットする必要があります。ReadyNAS NV+ または 1100 のセキュリティモードを共有モードからユーザモードに変更すると、所有権や権限に関するトラブルが起きやすくなります。

共有の所有権と権限をリセットする操作には時間がかかり、予期せぬ結果を招くことがあります。この操作を間違って行うと、ファイルの作成や表示ができなくなる可能性があります。ここで設定する値は、ファイル共有プロトコルの値よりも優先されます。

この操作を実行する前に、ユーザが正しいユーザ名とパスワードで共有にログインしており、ユーザのアクセス権限が正しく設定されていることを確認してください。

➢ **すべての共有でファイルとフォルダの所有権や権限をリセットする：**

1. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
2. 所有権や権限をリセットしたい共有の右側で、プロトコルのアイコンをクリックしてください。
3. ［詳細設定］タブをクリックします。
4. 共有のファイルの所有権と権限を変更するには、以下の手順で行なってください。
   - 共有上のファイルの所有者を設定するには、［共有フォルダの所有者］の欄にユーザ名を入力します。
   - 共有上のファイルのプライマリグループを設定するには、［共有フォルダグループ］にグループ名を入力します。
   - ファイルの所有者のアクセス権限を設定するには、［共有フォルダの所有者の権限］のドロップダウンリストで、アクセス権限のオプションを選択してください。
   - ファイルの所有者のアクセス権限を設定するには、［共有フォルダグループの権限］のドロップダウンリストで、アクセス権限のオプションを選択してください。
   - 所有者グループに含まれないユーザのアクセス権限を設定するには、［共有フォルダに対する全員の権限］のドロップダウンリストで、アクセス権限のオプションを選択してください。

   これらの設定が分からない場合は、新しい共有を作成し、本来の共有の設定を新しい共有と同じ設定にします。一つ例外があり、新しい共有の所有者が共有名と同じ場合、本来の共有の所有者名も本来の共有名と同じにします。完了したら、新しい共有を削除します。
5. ［**この共有の既存のファイルやフォルダに関する所有者とアクセス権を、上のように設定します。・・・**］というチェックボックスにチェックを入れます。

   共有に含まれるファイル数により、この操作を完了するには長時間かかる場合があります。このチェックボックスは、操作が完了すると消去されます。
6. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

共有にアクセスする

共有をどのように設定するかにより、様々な機器から共有にアクセスすることができます。Mac、Windows、UNIX、Linux 搭載の機器からアクセスできるだけでなく、Web ブラウザが搭載されている機器 (スマートフォンやタブレットなど) からもアクセス可能です。さらに、ReadyNAS と同じローカルネットワークを使用していない場合でも、共有にアクセスすることができます。

Windows から共有にアクセス

ご利用の ReadyNAS の CIFS 共有が Windows エクスプローラに表示されます。

- **Windows 機器からゲストとして共有にアクセスする :**

  Windows エクスプローラのアドレスバーに、ReadyNAS の IP アドレスを入力します。

- **Windows 機器からユーザとして共有にアクセスする :**

  1. **［ネットワークドライブの割り当て］**を選択します。

     このオプションの場所や名前は、お使いの Windows のバージョンにより異なります。ご利用の OS 付属の説明書をご覧ください。

  2. ドライブの文字を選択します。
  3. **［参照］**をクリックして共有を選びます。
  4. 必要に応じて、あなたのユーザ名とパスワードを入力してください。

     Windows エクスプローラのウィンドウに共有が表示されます。

Mac OS X から共有にアクセス

ReadyNAS に CIFS または AFP 共有がある場合、ReadyNAS は Finder ウィンドウのサイドバーに表示されます。ReadyNAS をクリックします。サーバに接続するような感覚で ReadyNAS に接続することができます。

- **Mac OS X から共有にアクセスする :**

  1. Finder で **［移動］> ［ネットワーク］**を選択し、全てのネットワークサーバの一覧を表示します。
  2. ReadyNAS をダブルクリックします。
  3. パスワードの入力を求められたら、次のいずれかを行ってください。
     - 共有セキュリティモードを利用している場合、共有名としてユーザ名を使用し、共有のパスワードを入力します。
     - ユーザまたはドメインセキュリティモードを使用している場合、ユーザ名とパスワードを入力し、**［接続］**をクリックします。

UNIX または Linux から共有にアクセス

UNIX または Linux コンピュータからは、NFS で利用可能な ReadyNAS のすべての共有にアクセスすることができます。

➢ **UNIX または Linux から共有にアクセスする：**

以下のコマンドを入力します。

```
mount <IP_address>:/<share_name> <share_name>
```

<IP_address> は ReadyNAS の IP アドレス、<share_name> はアクセスしたい共有の名前となります。例えば、ReadyNAS の IP アドレスは 10.1.10.103 であり、アクセスしたい共有の名前が media の場合、次のように入力します。

```
mount 10.1.10.103:/media media
```

FTP を使って共有にアクセス

FTP クライアントアプリケーションやプログラムから、FTP で利用可能な ReadyNAS のすべての共有にアクセスすることができます。FTP 認証モードをユーザに設定した場合、ユーザ名とパスワードでログインします。認証モードを匿名に設定すると、ユーザ名が匿名となり、メールアドレスがパスワードとなります。

Web ブラウザを使って共有にアクセス

共有が HTTP または HTTPS から利用可能な場合、スマートフォンやタブレットを含め、Web ブラウザのある機器から自由にアクセスすることができます。共有上のファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。すでにリード / ライト権限がある場合、ファイルのアップロード、削除、編集、移動などが可能です。

➢ **Web ブラウザから共有にアクセスする：**

1. Web ブラウザで ReadyNAS の URL を入力します。
2. ユーザ名とパスワードの入力を求められたら、指示に従って入力します。
3. 共有にリードのみのアクセス権限がある場合、ファイルをクリックして表示またはダウンロードすることができます。

   共有に対してリード / ライト権限がある場合、次のいずれかの操作を行うことができます。

   - ファイルをダウンロードするには、クリックします。
   - ファイルをサーバにアップロードするには、［**Upload（アップロード）**］をクリックします。表示されたダイアログボックスで［**参照**］をクリックしてファイルを選び、［**Upload（アップロード）**］をクリックします。
   - ファイルを削除するには、ファイルの隣のチェックボックスをクリックし、［**Delete（削除）**］をクリックします。
   - ファイルの名前を変更するには、ファイルの隣のチェックボックスをクリックし、［**Rename（名前の変更）**］をクリックして新しい名前を入力します。

- テキストファイルを編集するには、ファイルの隣のチェックボックスをクリックし、[**Edit（編集）**] をクリックします。
- 新しいテキストファイルを作成するには、[**New file（新規ファイル）**] をクリックします。表示されたダイアログボックスで、ファイルの名前を入力します。次のダイアログボックスで、ファイルのコンテンツを入力し、[**Save（保存）**] をクリックします。
- 新しいディレクトリを作成するには、[**New directory（新規ディレクトリ）**] をクリックし、ディレクトリの名前を入力します。
- ファイルを別の場所にコピーする場合は、ファイルの隣のチェックボックスをクリックし、[**Copy（コピー）**] をクリックします。ファイルを移動したいディレクトリを開き、[**Paste（貼り付け）**] をクリックします。
- ファイルを別の場所に移動する場合は、ファイルの隣のチェックボックスをクリックし、[**Cut（切り取り）**] をクリックします。ファイルを移動したいディレクトリを開き、[**Paste（貼り付け）**] をクリックします。

ReadyNAS Remote を使って共有にアクセス

ReadyNAS Remote を使うと、Mac や Windows コンピュータ、または Android 携帯、iPhone、iPad、iPod Touch などを通して ReadyNAS の共有にアクセスすることができます。例えば、自宅から共有にアクセスして会社の文書を編集したり、外出先から自宅に保存されたファイルを読んだりすることができます。

外部のデバイスから共有にアクセスする前に、コンピュータに ReadyNAS Remote をインストールし、ReadyNAS で ReadyNAS Remote を有効にする必要があります。

Mac OS X や Windows から共有にリモートアクセスする前に、AFP ファイル共有プロトコルの CIFS を使用して共有にアクセスできることを確認してください (50 ページの*ユーザモードで CIFS を使って共有にアクセスできるユーザを選択する*)。

iPhone、iPad、iPod Touch などのデバイスから共有にリモートアクセスする場合、FTP からアクセスできることを確認してください (56 ページの*ユーザセキュリティモードで FTP を使って共有にアクセスできるユーザを選択する*)。

➢ **コンピュータに ReadyNAS Remote をインストールする：**

1. コンピュータまたはデバイス用の ReadyNAS Remote ソフトウェアをダウンロードし、インストールします。

   Mac または Windows コンピュータをご利用の場合は、以下の URL からダウンロードしてください：*http://remote.readynas.com/download.html*。

   Android 携帯、iPhone、iPad、iPod Touch をご利用の場合は、Android マーケットまたは Apple の App Store からアプリをダウンロードしてください。

   Android 携帯、iPhone、iPad、iPod Touch などから ReadyNAS にリモートアクセスすることができますが、新規アカウントを作成することはできません。

2. ダウンロードした際に ReadyNAS Remote が自動的に起動しない場合、手動で実行してください。
3. ReadyNAS アカウントをお持ちでない場合は、新たに登録してください。

   [**New User（新規ユーザ）**] または [**新規アカウントの取得**] をクリックします。

➢ **ReadyNAS Remote を ReadyNAS で設定する：**

1. ReadyNAS で、以下のとおり正しいプロトコルを有効にしたかどうか確認してください。
   - Mac または Windows から共有にリモートアクセスする場合は、45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* での説明の通り、CIFS を有効にする必要があります。
   - Android 携帯、iPhone、iPad、iPod Touch から共有にリモートアクセスする場合は、45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* での説明の通り FTP を有効にする必要があります。
2. FrontView のメインメニューで、**［サービス］> ［インストール済みのアドオン］**を選択します。
3. **［ReadyNAS Remote］**のチェックボックスを選択し、**［保存］**をクリックします。
4. **［Manage ReadyNAS Remote］**ボタンをクリックします。
5. ReadyNAS Remote アプリケーションで、作成した自分のアカウントのメールアドレスを入力し、**［Find（検出）］**ボタンをクリックします。
6. 検出済みのリストで、自分が作成したアカウントのユーザ名を見つけ、**［Add（追加）］**ボタンをクリックします。

   ユーザ名が［Allowed（許可）］リストに追加されます。
7. **［Apply Settings（設定を適用）］**ボタンをクリックします。

➢ **Mac OS X から共有にリモートアクセスする：**

1. ReadyNAS Remote を実行します。
2. メニューバーの右側の ReadyNAS Remote メニューから、**［ログイン］**を選択し、アカウント名とパスワードを入力します。
3. メニューバーの右側の ReadyNAS Remote メニューで、**［ReadyNAS に接続］**を選択します。

   Finder に、アクセス可能なリモート ReadyNAS の一覧が表示されます。
4. アクセスしたい ReadyNAS をダブルクリックします。
5. 次のいずれかの操作を行います。
   - ユーザとしてログインするには、**［登録済みユーザ］**をクリックし、ユーザ名とパスワードを入力して**［接続］**をクリックします。

     このステップでは、ReadyNAS Remote ではなく、ReadyNAS にログインします。
   - ゲストとしてログインするには、**［ゲスト］**をクリックし、**［接続］**をクリックします。
6. アクセスする共有を選び、**［OK］**をクリックします。

- **Windows から共有にリモートアクセスする：**

  1. ReadyNAS Remote を実行します。
  2. タスクバーの ReadyNAS Remote アイコンを右クリックし、[**ログイン**] を選択してからアカウント名とパスワードを入力します。
  3. タスクバーの ReadyNAS Remote アイコンを右クリックし、[**Connect to ReadyNAS (ReadyNAS に接続)**] を選択します。

     Windows エクスプローラに、アクセス可能なリモート ReadyNAS の一覧が表示されます。
  4. アクセスしたい ReadyNAS をダブルクリックします。

     Windows エクスプローラに ReadyNAS 上の共有の一覧が表示されます。
  5. 共有をダブルクリックしてアクセスします。

- **Android 携帯、iPhone、iPad、iPod Touch から共有にリモートアクセスする：**

  1. Android マーケットまたは Apple の App Store から ReadyNAS Remote のアプリをダウンロードします。
  2. ReadyNAS Remote アプリを立ち上げ、画面の指示に従って共有に接続します。

マルチメディアファイルのストリーミング

5

音楽やビデオなどのマルチメディアファイルを ReadyNAS に保存し、コンピュータ、テレビ、その他のデバイスにストリーミングすることができます。また、画像や写真を保存し、他のユーザと共有することもできます。

この章には次の内容が含まれます。

- *Firefly で iTunes のマルチメディア ファイルをストリーミング*
- *ReadyDLNA で TiVo と Xbox のマルチメディアファイルを ストリーミング*
- *ReadyNAS Photos を使って写真を共有*
- *ディスカバリサービスの設定*

Firefly で iTunes のマルチメディアファイルをストリーミング

Firefly を使用すると、ReadyNAS から iTunes やその他の音楽ストリーミングプレーヤー (Sono や Roku SouncBridge など) を搭載したコンピュータ、テレビ、その他の機器などに、音楽やビデオをストリーミングすることができます。また、スマートプレイリストを設定すると、音楽をジャンル、アーティスト、年代、その他のカテゴリに分類することができます。

iTunes ストリーミングの設定

iTunes を使うと、あらゆる機器で簡単にストリーミングを開始することができます。

➢ **iTunes ストリーミングを開始する：**

1. FrontView のメインメニューから **[サービス]>[ストリーミングサービス]** を選択します。
2. **［iTunes ストリーミングサーバは、・・・］** を選択します。
3. **［適用］** ボタンをクリックします。
4. コンピュータで media という名前の共有を開き、音楽ファイルを共有の Music フォルダにコピーします。

   音楽を ReadyNAS の別の場所に保存したい場合は、75 ページの*ストリーミングする音楽ファイルを選ぶ*をご覧ください。
5. FrontView のメインメニューから、**［サービス］> ［ストリーミングサービス］** を選択し、**［Firefly 設定画面に接続する］** をクリックします。
6. Firefly で **［全画面で起動］** をクリックします。

➢ **iTunes で音楽を聴く：**

1. iTunes を起動します。
2. 共有の iTunes のサイドバーで、iTunes サーバの名前をクリックします。

   既定では、「Itunes server」となっていますが、名前を変更する場合は 75 ページの*サーバ名とパスワードの変更*をご覧ください。
3. **［再生］** をクリックします。

スマートプレイリストを使う

スマートプレイリストを作成し、音楽をジャンル、アーティスト、年代、その他のカテゴリに分類することができます。分類した後は、iTunes に対応したすべてのデバイスで、このプレイリストを再生することができます。

- **スマートプレイリストを作成する：**

  1. FrontView のメインメニューから、**［サービス］** > **［ストリーミングサービス］**を選択し、**［Firefly 設定画面に接続する］**をクリックします。
  2. **［smart playlists（スマートプレイリスト）］**をクリックします。
  3. **［Add new playlist（新規プレイリストの追加）］**をクリックします。
  4. **［Name（名前）］**の欄に名前を入力します。
  5. **［Wizard（ウィザード）］**をクリックし、条件を選択します。
  6. **［作成］**をクリックします。

- **スマートプレイリストを編集する：**

  1. FrontView のメインメニューから、**［サービス］** > **［ストリーミングサービス］**を選択し、**［Firefly 設定画面に接続する］**をクリックします。
  2. **［smart playlists（スマートプレイリスト）］**をクリックします。
  3. プレイリストの名前の隣の**［Edit（編集）］**をクリックし、次のいずれかの操作を行います。
     - ［Name（名前）］の欄の名前を変更します。
     - **［Wizard（ウィザード）］**をクリックし、条件を変更します。
  4. **［Update（更新）］**をクリックします。

- **iTunes のスマートプレイリストを使用する：**

  1. iTunes を起動します。
  2. 共有の iTunes のサイドバーで、iTunes サーバ名の隣にある三角のマークをクリックし、プレイリストの隣の三角をクリックします。
  3. **［再生］**をクリックします。

ストリーミングする音楽ファイルを選ぶ

ReadyNAS でマルチメディアファイルを保存する場所を変更したり、またはマルチメディアファイルを複数の場所に保存したりすることができます。

➢ **ストリーミングする音楽ファイルを選ぶ：**

1. FrontView のメインメニューから、**［サービス］＞［ストリーミングサービス］**を選択し、**［Firefly 設定画面に接続する］**をクリックします。
2. Firefly のメインメニューで**［Configuration（構成）］**をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - music フォルダの場所を変更する場合は、**［Music Folder（音楽フォルダ）］**の欄を編集します。
   - 音楽の新しいファイルを追加するには、**［Add music folder（音楽フォルダを追加）］**をクリックし、フォルダのパス名を入力します。

     Firefly が iTunes のフォルダから音楽をリストアップします。
   - iTunes にリストされるファイルの種類を変更するには、［Extensions（拡張子）］でファイルの拡張子を編集します。
4. **［Save（保存）］**をクリックします。
5. Firefly のメインメニューで**［server status（サーバの状態）］**をクリックします。
6. **［Start Full Scan（フルスキャンをスタート）］**をクリックします。

サーバ名とパスワードの変更

iTunes のサイドバーに表示される ReadyNAS の識別名を変更したり、またはユーザがファイルを使用する際に必要となるパスワードを割り当てたりすることができます。

➢ **サーバ名とパスワードを変更する：**

1. FrontView のメインメニューから、**［サービス］＞［ストリーミングサービス］**を選択し、**［Firefly 設定画面に接続する］**をクリックします。
2. **［Configuration（構成）］**をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - iTunes のサイドバーに表示される名前を変更するには、［Server Name（サーバ名）］の欄を編集します。
   - ReadyNAS で音楽を再生する時、ユーザにパスワード入力を求めるには、［Music Password（音楽パスワード）］の欄にパスワードを入力します。
   - Firefly の環境設定に変更を加える時にユーザにパスワード入力を求めるには、［Admin password（管理者パスワード）］の欄にパスワードを入力します。
4. **［Save（保存）］**をクリックします。

メディアファイルのスキャン方法を変更する

マルチメディアファイルのスキャンを行うと、ReadyNAS で利用可能な曲のリストが更新され、最近追加した曲が iTunes に表示されます。またスキャンを実行すると、タグされていなかった曲に、曲の長さなどの情報を含むタグが追加されます。すぐに曲をスキャンすることもできますが、どれくらいの頻度で自動的にタグ付を行うかを設定することもできます。

一部のメディアファイルは、iTunes に曲の長さなどの情報を提供するタグデータが付いていないことがあります。マルチメディアファイルをスキャンする時、タグ付されていないファイルのこのようなデータを計算することができます。こうしたデータの計算方法をどの位の頻度で、どの程度正確に行うか、ユーザが決定することができます。ファイルに情報がタグ付されている場合、この情報は計算されません。

➢ **メディアファイルのスキャン方法を変更する：**

1. FrontView のメインメニューから、**［サービス］＞［ストリーミングサービス］**を選択し、**［Firefly 設定画面に接続する］**をクリックします。
2. **［configuration（構成）］**をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - 長さなどの情報がタグ付されていないメディアファイルについて、このデータを正確に計算する方法は、［Scan Type（スキャンタイプ）］のドロップダウンリストから、次のオプションを選択します。
     - **0 - Normal（標準）**: 速度は最高ですが、精度が低くなります。
     - **1 - Aggressive（アグレッシブ）**: [0-Normal（標準）] と [2-Painfully Aggressive（正確）] の中間です。
     - **2 - Painfully Aggressive（正確）**: 速度は遅くなりますが、もっとも正確です。

     多くのメディアファイルにはこのデータがタグ付されているので、この計算は必要ありません。
   - 新しいメディアファイルをスキャンする頻度を選ぶには、[Rescan Interval（リスキャンする間隔）]の欄に秒数を入力します。既定値は 86,400 秒、つまり 24 時間ごとです。
   - iTunes クライアントがメディアファイルにアクセスしていない場合でも新しいファイルをスキャンするには、［Always Scan（常にスキャン）］のドロップダウンリストで**［Yes］**を選択します。
4. **［Save（保存）］**をクリックします。

➢ **すぐに新しいメディアファイルをスキャンする：**

1. FrontView のメインメニューから、**［サービス］＞［ストリーミングサービス］**を選択し、**［Firefly の設定ページへのリンク］**をクリックします。
2. **［Start Full Scan（フルスキャンをスタート）］**をクリックします。

ReadyDLNA で TiVo と Xbox のマルチメディアファイルをストリーミング

DLNA (Digital Living Network Alliance) 規格に準拠しているローカルネットワーク上の機器 (TiVo や Xbox を含む) にマルチメディアファイルをストリーミングすることができます。

➢ **ReadyDLNA ストリーミングを開始する :**

1. ご利用のコンピュータで ReadyNAS の media 共有を開き、音楽ファイルをここにコピーします。

   音楽を ReadyNAS の別の場所に保存したい場合は、75 ページの*ストリーミングする音楽ファイルを選ぶ*をご覧ください。

2. FrontView のメインメニューから **[サービス]>[ストリーミングサービス]** を選択します。
3. **[ReadyDLNA]** のチェックボックスを選択します。
4. コンテンツを TiVo 対応機器で再生するには、**[TiVo サポートを有効にします。]** のチェックボックスを選択します。
5. **[適用]** ボタンをクリックします。

   メディアファイルが自動的にスキャンされます。

➢ **ストリーミングするメディアファイルを選ぶ :**

1. FrontView のメインメニューから **[サービス]>[ストリーミングサービス]** を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 音楽フォルダの場所を変更するには、[共有] のドロップダウンリストから新しい共有を選び、[フォルダ] の欄を編集します。
   - 新しい音楽フォルダを追加するには、**[新しいフォルダの追加]** ボタンをクリックし、適切な共有とフォルダを選択します。

     表示されたフォルダのメディアが TiVo に表示されます。
   - DLNA クライアントに表示されるファイルの種類を変更するには、[コンテンツの種類] のドロップダウンリストからオプションを選択します。
3. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

➢ **メディアファイルをスキャンする :**

1. FrontView のメインメニューから **[サービス]>[ストリーミングサービス]** を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 新しいメディアファイルを自動的にスキャンするには、**[データベースを自動的にアップデートします。]** のチェックボックスを選択し、**[適用]** ボタンをクリックします。
   - すぐに新しいメディアファイルをスキャンする場合は、**[メディアファイルの再スキャン]** ボタンをクリックします。

ReadyNAS Photos を使って写真を共有

ReadyNAS Photos を使うと、ReadyNAS に写真を保存し、フォトアルバムを作成したり、メールアドレスを使って他のユーザと共有することができます。

ReadyNAS Photos を始める

ReadyNAS で ReadyNAS Photos を有効にし、アカウントを作成してログインします。

- **ReadyNAS Photos を有効にする：**

1. FrontView のメインメニューから［**サービス**］>［**インストール済みのアドオン**］を選択します。
2. ［**ReadyNAS Photos**］のチェックボックスを選択します。
3. ［**保存**］ボタンをクリックします。
4. ［**ReadyNAS Photos をインストール**］ボタンをクリックします。
5. ソフトウェアをダウンロードし、コンピュータにインストールします。

- **ReadyNAS Photos にログインする：**

1. ReadyNAS Photos を起動します。
2. アカウントをお持ちでない場合は、［**サインアップ**］をクリックし、ユーザ名やパスワードなどの必要事項を入力してください。
3. ユーザ名とパスワードを入力し、右矢印をクリックします。
4. ReadyNAS のリストが表示されたら、写真を保存したい ReadyNAS をクリックします。

   ReadyNAS上のmedia共有にアクセスするためにユーザ名とパスワードが必要な場合は、表示されたダイアログボックスにこれらを入力し、［**接続**］をクリックします。

フォトアルバムの作成

ReadyNAS Photos を使って写真をインポートし、アルバムを作成することができます。

- **写真から新規フォトアルバムを作成する：**

1. ReadyNAS Photos で［**新規アルバム**］をクリックします。

   ［新規アルバム］が表示されない場合は、［**Photos ホーム**］をクリックし、［**新規アルバム**］をクリックします。
2. ［アルバム名］の欄で新しいフォトアルバムの名前を入力します。
3. フォルダのアイコンをクリックし、インポートする写真を選択します。
4. 右矢印ボタンをクリックします。

   写真がインポートされ、新しいアルバムがアルバムリストに表示されます。

➢ **写真フォルダから新規フォトアルバムを作成する：**

1. アルバムの写真がフォルダに保存されていることを確認してください。フォルダの名前がアルバムの名前となります。
2. ReadyNAS Photos で、**［アルバムをインポート］**をクリックします。

   ［アルバムのインポート］が表示されない場合は、**［Photos ホーム］**をクリックし、**［アルバムをインポート］**をクリックします。
3. インポートするフォルダを選び、右矢印（>>）ボタンをクリックします。

   フォルダが［選択されたフォルダ］の一覧に表示されます。
4. **［開始］**をクリックします。

   写真がインポートされ、新しいアルバムがアルバムリストに表示されます。

写真の表示と共有

写真をコンピュータで閲覧したり、メールアドレスを使って他のユーザと共有することができます。

➢ **写真を表示する：**

1. ReadyNAS Photos でアルバムをクリックします。

   アルバムが表示されない場合は、**［Photos ホーム］**をクリックし、アルバムをクリックします。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 画像のスライドショーを見るには、[スライドショーを開始] のアイコンをクリックします。
   - すべての写真を小さく表示する場合は、[サムネイルビュー] または [リストビュー] のアイコンをクリックします。
   - 大きな写真を表示するには、写真をクリックします。
   - 写真を左右に回転させるには、[時計回りに回転させる]、[反時計回りに回転させる] アイコンをクリックします。
   - 写真を削除するには、[写真の削除] のアイコンをクリックします。

➢ **フォトアルバムを共有する：**

1. ReadyNAS Photos でアルバムをクリックします。

   アルバムが表示されない場合は、**［Photos ホーム］**をクリックし、アルバムをクリックします。
2. **共有**をクリックします。
3. メールアドレスをカンマで区切って入力し、必要に応じてアルバムに関するメッセージを入力します。
4. **共有**をクリックします。

ディスカバリサービスの設定

ディスカバリサービスとは、他のコンピュータやサービスが利用可能かどうかを知るためのサービスです。ご利用の ReadyNAS は、ディスカバリサービスを利用して他のコンピュータにマルチメディアファイルやプリンタのサービスを知らせることができます。ディスカバリサービスはデフォルトでは有効となっていますが、セキュリティを強化したい場合は無効にすることもできます。

ご利用の ReadyNAS は 2 種類ディスカバリサービスに対応しています。

- Bonjour は Mac OS X に含まれるサービスです。他の OS では、iTunes など一部のアプリケーションで使われています。
- UPnP (ユニバーサルプラグ＆プレイ) はマルチメディアファイルを検出する上で多くのデバイスに使われています。

➢ **ディスカバリサービスを有効または無効にする：**

1. FrontView のメインメニューから［**サービス**］**>**［**ディスカバリサービス**］を選択します。
2. ディスカバリサービスを以下のように管理します。
   - Bonjour を有効にするには、［**Bonjour サービス**］のチェックボックスを選択します。

     Bonjour を有効にすると、［通知］のチェックボックスが有効になります。Bonjour が通知する機能にはチェックを入れ、必要ない場合はチェックを外してください。
   - Bonjour を無効にするには、［**Bonjour サービス**］のチェックボックスからチェックを外します。
   - UPnP を有効にするには、［**uPnP**］のチェックボックスを選択します。
   - UPnP を無効にするには、［**uPnP**］のチェックボックスからチェックを外します。
3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ファイルのバックアップ

6

この章では、ReadyNAS でファイルをバックアップする方法についてご紹介しています。Mac コンピュータは Time Machine を使って ReadyNAS にバックアップを取ることができます。また ReadyNAS を ReadyNAS Vault で外部のストレージに保存したり、FrontView を使って ReadyNAS で他のバックアプジョブを作成することができます。

この章には次の内容が含まれます。

- *Time Machine を使い、Mac を ReadyNAS へバックアップ*
- *ReadyNAS Vault を使って ReadyNAS をリモートバックアップ*
- *ReadyNAS へ、および ReadyNAS からのバックアップ*

Time Machine を使い、Mac を ReadyNAS へバックアップ

Mac をお持ちの方は、Time Machine を使って ReadyNAS にバックアップを取ることができます。FrontView で、ReadyNAS のタイムマシンサポートを有効にします。次に、バックアップディスクとして ReadyNAS を選択します。

- **Time Machine サポートを有効にする：**

  1. FrontView のメインメニューで［**バックアップ**］>［**タイムマシン**］を選択します。
  2. ［**タイムマシンサポートを有効にする**］を選択します。
  3. ［パスワード］の欄でパスワードを作成します。

     ユーザ名は ReadyNAS で、変更はできません。
  4. ［容量］の欄で、Time Machine 共有用の最大サイズを GB で入力します。

     この欄を空白にするか、またはゼロに設定すると、Time Machine は ReadyNAS で利用可能なすべての容量を使用します。この欄にサイズを入力すると、バックアップは利用可能な容量と、ここに入力されたサイズの、いずれか小さい方を上限とします。
  5. ［**適用**］ボタンをクリックします。

     AFP プロトコルが有効でない場合は、有効になります。

- **Mac を ReadyNAS にバックアップする：**

  1. Mac でシステム環境設定を開き、［**Time Machine**］をクリックします。
  2. ［**ディスクを選択**］をクリックします。
  3. ［**ReadyNAS**］を選択し、［**バックアップディスクを使用**］または［**バックアップディスクとして使用**］をクリックします。

     ダイアログボックスが表示されます。
  4. ユーザ名の部分に **ReadyNAS** と入力し、前の手順で作成したパスワードを入力し、［**接続**］をクリックします。

     Mac から ReadyNAS へ、ファイルのバックアップが始まります。初回バックアップには数時間かかることがあります。

ReadyNAS Vault を使って ReadyNAS をリモートバックアップ

ReadyNAS Vault は、ReadyNAS が破損したり、火災、洪水、盗難、その他の災害で破壊された場合でも、データを安全に保護することができます。Web ブラウザ (スマートフォンでも可) を使い、バックアップスケジュールを設定したり、バックアップファイルを閲覧したりできます。また、必要に応じて他のユーザがあなたのファイルにアクセスできるようにすることもできます。詳しくは、以下のサイトをご覧ください : *http://www.netgear.com/readynasvault*。

- **ReadyNAS Vault を設定する :**

  1. FrontView のメインメニューで［**バックアップ**］**>**［**ReadyNAS Vault**］を選択します。
  2. ［**ReadyNAS Vault サポートを有効にする**］を選択し、［**適用**］ボタンをクリックします。
  3. ［**こちらをクリックして登録してください**］というリンクをクリックし、一時的な無料アカウントを作成します。
  4. メールアドレスとパスワードを入力し、［**登録**］をクリックします。
  5. ［**ReadyNAS Vault の管理**］をクリックします。

     ReadyNAS Vault のオプションを設定する Web ページが開きます。

ReadyNAS へ、および ReadyNAS からのバックアップ

ReadyNAS から別のコンピュータへファイルをバックアップしたり、または別のコンピュータから ReadyNAS へバックアップすることができます。バックアップは、ユーザが設定した時間通りに自動で行うこともでき、また ReadyNAS の正面にあるバックアップボタンを押して随時行うこともできます。

バックアップ元とバックアップ先のどちらかが ReadyNAS 上である必要があります。遠隔地のシステムから別のシステムへバックアップを取るのに、ReadyNAS を使用することはできません。

本マニュアルで説明しているバックアップジョブは、データファイルやドキュメントのバックアップに最適な方法です。OS を含むコンピュータのすべてのファイルをバックアップして、ファイルを復元し、復元されたコピーから起動したい場合は、コンピュータから ReadyNAS にバックアップが可能な他社製ソフトウェアをご利用ください。

バックアップジョブの作成

FrontView を使用して、ReadyNAS のバックアップジョブを作成します。

➢ **バックアップジョブを作成する：**

1. ユーザがアクセスしている最中に大きな共有のバックアップを取る必要がある場合、共有のスナップショットを作成し、これをバックアップします。

   詳しくは 90 ページの*スナップショットを使う* をご覧ください。

2. FrontView のメインメニューから **[バックアップ] > [新しいバックアップジョブの追加]** を選択します。
3. ［バックアップ元の指定］の欄で、バックアップ元を指定します。
   - ReadyNAS にデータをバックアップするには、84 ページの *ReadyNAS の場所を選択* をご覧ください。
   - ReadyNAS にはないデータをバックアップするには、85 ページの *リモートの場所を選択*をご覧ください。
4. ［バックアップ先の指定］の欄で、バックアップ先を指定します。
   - バックアップするデータがローカルの場合、バックアップ先にはリモートの場所を選択してください。詳しくは 85 ページの *リモートの場所を選択* をご覧ください。
   - バックアップするデータがリモートの場合、バックアップ先には ReadyNAS 上の場所を選択してください。詳しくは 84 ページの *ReadyNAS の場所を選択* をご覧ください。
5. ［バックアップスケジュールの指定］の欄で、バックアップジョブを実行するタイミングを設定します。

   詳しくは 87 ページの*バックアップを実行するタイミングの決定*をご覧ください。

6. ［バックアップオプションの指定］の欄で、バックアップジョブのオプションを設定します。

   詳しくは 87 ページの*バックアップオプションの設定*をご覧ください。

7. **［適用］**ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ReadyNAS の場所を選択

ReadyNAS でバックアップ元またはバックアップ先を選択します。以下のオプションがあります。

- **共有**: 各共有は、バックアップ元とバックアップ先のドロップダウンリストに名前で表示されます。

- **ボリューム**: 各ボリュームは、バックアップ元とバックアップ先のドロップダウンリストに名前で表示されます。X-RAID を使用している場合、ReadyNAS にはボリューム C しかありません。ボリュームをバックアップ元として選択すると、ボリューム内のすべての共有、プライベートホーム共有、非表示の共有などがバックアップされ、それぞれがバックアップ先の別々のフォルダに保存されます。

  ボリュームをバックアップ先として選択することはできません。ボリューム上の共有を選択してください。

- **USB デバイス**: ReadyNAS の各 USB ポートは、バックアップ元およびバックアップ先のドロップダウンリストに表示されます。バックアップ先またはバックアップ元となるポートを選んでください。ポートに USB 機器が接続されていなくても、バックアップを設定することができます。バックアップが起動した時に USB 機器が接続されていない場合、バックアップは失敗します。

  バックアップが完了した時に USB 機器を取り外す場合は、[**バックアップ後に USB ドライブをアンマウントする**] を選択します。

- **ホーム共有**: 各ユーザのプライベートホーム共有は、バックアップ元とバックアップ先のメニューに名前で表示されます。
- **全てのホーム共有**: バックアップ元のドロップダウンリストにのみ表示されます。このオプションでは、全てのプライベートホーム共有をバックアップ先の個別のフォルダにバックアップします。
- **Time Machine**: このオプションは、ReadyNAS 上の Time Machine リポジトリを外部ドライブにバックアップします。
- **フォルダ**: 1 つのフォルダからのみ、またはフォルダへバックアップする場合は、[**Browse（参照）**] をクリックし、フォルダを選択します。

リモートの場所を選択

ReadyNAS 上にはない場所をバックアップ先またはバックアップ元として選択します。以下のオプションがあります。

- **アーカイブビットを使用した Windows または NAS サーバ**: [**リモート : Windows（アーカイブビット）**] メニューオプションを選択し、Windows または NAS サーバにバックアップを行います。これは、バックアップ元のドロップダウンリストでのみ利用可能です。増分バックアップを行なっている場合、ReadyNAS はファイルのアーカイブビットを使用してファイルをバックアップするかどうかを判断します。
  - [ホスト] の欄に、リモートシステムの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
  - [パス] の欄にリモートシステムのパス名を入力します。
  - [ログイン] と [パスワード] の欄で、リモートシステムのユーザ名とパスワードを入力します。

- **タイムスタンプを使用した Windows または NAS サーバ**:［**リモート：Windows/NAS（タイムスタンプ）**］メニューオプションを選択し、Windows または NAS サーバにバックアップを行います。これは、バックアップ元とバックアップ先のドロップダウンリストに表示されます。この場所がバックアップ元であり、増分バックアップが行われている場合、ReadyNAS はタイムスタンプを利用してどのファイルをバックアップするのかを判断します。
  - ［ホスト］の欄に、リモートシステムの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
  - ［パス］の欄にリモートシステムのパス名を入力します。
  - ［ログイン］と［パスワード］の欄で、リモートシステムのユーザ名とパスワードを入力します。
- **HTTP サーバ**: HTTP サーバのバックアップ先、またはバックアップ元に［**リモート：Web サイト**］のメニューオプションを選択します。これは、バックアップ元とバックアップ先のドロップダウンリストに表示されます。
  - ［ホスト］の欄に、リモートシステムの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
  - ［パス］の欄にリモートシステムのパス名を入力します。
  - ［ログイン］と［パスワード］の欄で、リモートシステムのユーザ名とパスワードを入力します。
- **FTP サーバ**: FTP サーバのバックアップ先、またはバックアップ元に［**リモート：FTP サイト**］のメニューオプションを選択します。これは、バックアップ元とバックアップ先のドロップダウンリストに表示されます。
  - ［ホスト］の欄に、リモートシステムの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
  - ［パス］の欄にリモートシステムのパス名を入力します。
  - ［ログイン］と［パスワード］の欄で、リモートシステムのユーザ名とパスワードを入力します。
- **NFS サーバ**: NFS サーバのバックアップ先、またはバックアップ元に［**リモート：NFS サーバ**］のメニューオプションを選択します。これは、バックアップ元とバックアップ先のドロップダウンリストに表示されます。
  - ［ホスト］の欄に、リモートシステムの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
  - ［パス］の欄にリモートシステムのパス名を入力します。
  - ログイン認証を入力する必要はありません。
- **Rsync サーバ**: Rsync サーバのバックアップ先、またはバックアップ元に［**リモート：Rsync サーバ**］のメニューオプションを選択します。これは、バックアップ元とバックアップ先のドロップダウンリストに表示されます。

  このオプションを選択する場合は、45 ページの *ファイル共有プロトコルの管理* で説明されているとおり、Rsync ファイル共有プロトコルを有効にしてください。
  - ［ホスト］の欄に、リモートシステムの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
  - ［パス］の欄にリモートシステムのパス名を入力します。
  - リモート Rsync サーバでログイン認証が必要な場合、［ログイン］と［パスワード］の欄で、リモートシステム用のユーザ名とパスワードを入力してください。

  - スペースを節約するためにバックアップを圧縮したい場合は、[**圧縮を有効にする**]を選択します。圧縮されている場合、バックアップでファイルを閲覧することはできません。
  - バックアップ元でファイルが削除された時にバックアップ先でもファイルを削除するかどうかは、[**ソースで削除されたファイルを消去します**]を選択します。このオプションを利用するとスペースを節約することができますが、ユーザが誤ってファイルを削除してしまった場合に復元ができなくなります。
  - バックアップファイルが Windows 旧バージョンとも互換性を維持できるようにするには、[**FAT32 コンパチビリティ・モードを有効にする**]を選択します。
  - 特定のファイルやフォルダをバックアップしない場合、[**コンマで区切って、バックアップに含めないファイルやディレクトリを指定**]という欄で、バックアップから除外したいファイルやフォルダのパス名をカンマで区切って入力します。
- **USB デバイス**: このオプションは、ReadyNAS の USB ポートに接続されたデバイスへのバックアップ、またはデバイスからのバックアップを有効にします。ReadyNAS に接続されたすべての USB デバイスは、バックアップ元とバックアップ先のどちらのドロップダウンリストにも表示されます。
  - デバイス上の特定のフォルダから、またはフォルダへバックアップしたい場合は、[**Browse（参照）**]をクリックしてフォルダを選択します。
  - バックアップが完了した時にデバイスを取り外す場合は、[**バックアップ後に USB ドライブをアンマウントする**]を選択します。

バックアップを実行するタイミングの決定

以下のオプションがあります。

- ユーザが指示した時のみバックアップを実行する場合は、[**バックアップの実行間隔**]というチェックボックスのチェックを外します。
- バックアップを定期的に行うには、[**バックアップアップの実行間隔**]のチェックボックスを選択し、スケジュールを設定します。

バックアップは、毎時 5 分に実行されるので、データがバックアップされる前に、スナップショットデータを作成することができます。スナップショットに関する詳細は、90 ページの*スナップショットを使う*を参照してください。

バックアップオプションの設定

[**バックアップオプションの指定**]の欄で、以下のいずれかのオプションを設定します。

- 完全バックアップが行われる頻度については、[**完全バックアップのスケジュール**]のドロップダウンリストから選択します。増分バックアップは、その他すべてのバックアップに対して実行されます。毎回、初回のみ、または数週間ごとに完全なバックアップを実行することもできます。

  完全バックアップでは、バックアップ元からのすべてのファイルがコピーされます。増分バックアップは、前回のバックアップ以降、変更が加えられた部分のみをバックアップします。増分バックアップは時間がかかりませんが、何度も行うとディスク容量を取りますのでご注意ください。

- 完全バックアップを行う前に、バックアップ先のすべてのアイテムを削除するには、**[完全バックアップが実行される前に、バックアップ先のコンテンツをすべて削除します。・・・]** のチェックボックスを選択します。バックアップの一部ではないものも含め、バックアップ先のすべてのアイテムが消去されます。前回の完全バックアップ前に削除されたアイテムは復元できません。

> **注意：** このオプションを選択する際は、バックアップ元とバックアップ先が正しく設定されていることを確認してください。万が一、バックアップ先と元を逆に指定してしまうと、元のデータが完全に消えてしまいます。バックアップ先のストレージ容量が低下している場合を除き、このオプションは利用しないでください。

- バックアップが完了した後、管理者のメールアドレスにどのような情報を送信するかは、［バックアップの終了時に送信］のドロップダウンリストからオプションを選択します。エラーが発生した時のみメッセージを送信する、完全なバックアップファイルのリストを常に送信する、またはステータスとエラーメッセージを含む情報を常に送信する、など、メッセージの形態を選ぶことができます。
- バックアップ先のファイルの所有者を、バックアップ共有の所有者に変更するには、**[バックアップが完了した後、・・・バックアップ先のファイルの所有者を共有の所有者に変更します。・・・]** というチェックボックスを選択します。このオプションは、共有セキュリティモードを使用しており、すべてのユーザがバックアップ先のファイルにアクセスできるようにしたい場合に使います。

バックアップボタンにバックアップジョブを割り当てる

ReadyNAS の正面に付いているバックアップボタンに、バックアップジョブを割り当てることができます。このボタンを利用すると、バックアップボタンを押すだけで、簡単にバックアップを実行することができます。

➢ **バックアップボタンにバックアップジョブを割り当てる：**

1. FrontView のメインメニューで［**バックアップ**］>［**バックアップジョブ**］を選択します。
2. ［バックアップボタンの設定］欄で、ドロップダウンリストから、バックアップボタンが押された時にどのバックアップジョブを実行するかを選択します。
3. ［適用］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

   バックアップボタンを押すと、リストされた順にジョブが実行されます。

バックアップジョブの編集

バックアップジョブを作成した後、これを編集することができます。

➢ **バックアップジョブの編集：**

1. FrontView のメインメニューで［**バックアップ**］>［**バックアップジョブ**］を選択します。
2. ［バックアップのスケジュール］の欄で、バックアップジョブの番号ボタンをクリックします。
3. 作成した時と同じようにバックアップジョブを編集します。

   詳しくは 84 ページの*バックアップジョブの作成*をご覧ください。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

バックアップデータの復元

データをバックアップした時とほぼ同じ方法で、復元ジョブを作成することができます。「復元」ジョブである新規バックアップジョブを作成します。このバックアップジョブのバックアップ元を、復元ジョブのバックアップ先として使用し、バックアップジョブのバックアップ先を復元ジョブのバックアップ元として使用します。また、幾つかのオプションを正しく利用し、復元したデータを誤って消去してしまわないようにしてください。

➢ **バックアップデータを復元する：**

1. FrontView のメインメニューから［**バックアップ**］>［**新しいバックアップジョブの追加**］を選択します。
2. ［バックアップ元の指定］の欄で、本来のバックアップジョブのバックアップ先を選択します。

   復元ジョブのバックアップ元の欄には、バックアップジョブのバックアップ先の設定とまったく同じになるよう確認します。

   詳しくはを 84 ページの *ReadyNAS の場所を選択*および 85 ページの *リモートの場所を選択*をご覧ください。
3. ［バックアップ先の指定］の欄で、本来のバックアップジョブのバックアップ元を選択します。

   復元ジョブのバックアップ先の欄にある設定が、バックアップジョブのバックアップ元の設定とまったく同じであることを確認します。
4. ［バックアップスケジュールの指定］の欄で、［**バックアップの実行間隔**］というチェックボックスのチェックを外します。

   復元ジョブにはスケジュールを設定しないでください。スケジュールを設定すると、誤って復元データを消してしまう恐れがあります。復元ジョブは手動で一度実行します。

5. ［バックアップオプションの指定］の欄で、以下のオプションを設定します。
   - ［完全バックアップのスケジュール］のドロップダウンリストから、**「毎回」**を選択します。
   - **［完全バックアップが実行される前に、バックアップ先のコンテンツをすべて削除します。・・・］**のチェックボックスのチェックを外します。

   この欄で、必要に応じて他のオプションも設定することができます。詳しくは 87 ページの*バックアップオプションの設定*をご覧ください。
6. **［適用］**ボタンをクリックします。

   復元ジョブは保存されます。
7. FrontView のメインメニューで **［バックアップ］** > **［バックアップジョブ］**を選択します。
8. 作成した復元ジョブのとなりの **［実行］**ボタンをクリックします。

   データが復元されます。

スナップショットを使う

ユーザがファイルを編集している最中に、このファイルが保存された大容量の共有をバックアップすると、不整合なバックアップや、使用不可能なバックアップになることがあります。例えば、ユーザがバックアップの済んでいないファイルをバックアップ済みのフォルダに移動すると、このファイルはバックアップされず、失われることになります。誰も共有にアクセスしていない時にバックアップが実行されるようスケジュールすることができますが、それができない場合は、スナップショットを利用することができます。

スナップショットとは、特定の時間におけるボリューム内のファイルの読取専用コピーです。この特定の時間以降にユーザがファイルに変更を加えると、これら変更に関する情報がシステムボリュームの特殊な領域に保存されます。ユーザが共有にアクセスすると、ReadyNAS はスナップショットの変更に関する情報を結合し、最新のデータを提供します。

スナップショットを作成していると、ReadyNAS によるデータ提供はやや遅くなりますので、バックアップしている時のみボリュームのスナップショットを作成することをお勧めします。

スナップショットのバックアップジョブを作成する際、スナップショットの名前をバックアップ元として選択してください。このためには、バックアップジョブを作成する前にスナップショットを作成する必要があります。92 ページの*今すぐスナップショットを作成*を参照してください。共有のスナップショットの名前は、共有名に "-snap" と付きます。例えば、"media" という共有のスナップショットは "media-snap" となります。

変更に必要な容量が、あらかじめ確保された容量を上回る場合、ボリュームのスナップショットは期限切れとなります。このため、スナップショットスケジュールを作成する際は、バックアップジョブが完了するまでスナップショットが利用可能な状態であることを確認してください。

スナップショットスケジュールの設定

FrontView を使い、スナップショットスケジュールを設定することができます。

➢ **スナップショットスケジュールを設定する：**

1. FrontView メインメニューから［**ボリューム**］>［**ボリューム設定**］を選択します。
2. ［スナップショット］のタブをクリックします。

   FrontView で［スナップショット］タブが表示されない場合、ボリュームでスナップショットが設定されていないことを意味します。
3. ［スナップショットスケジュール］の欄で、スナップショットを記録するスケジュールを設定してください。

   スナップショットスケジュールがバックアップスケジュールと重なっていることを確認してください。

   バックアップが始まるまえにスナップショットを作成する十分な時間を確保するには、スナップショットが毎時ちょうどに始まるようにし、バックアップが毎時 5 分に始まるよう設定することをお勧めします。
4. ［有効期間］のドロップダウンリストから、スナップショットを維持する期間を指定します。

   スナップショットを利用すると ReadyNAS の反応が遅くなるため、バックアップが完了するまでスナップショットを維持し、後は削除することをお勧めします。バックアップが完了するまでの間、スナップショットが利用可能であることを確認してください。
5. ［**保存**］をクリックします。

スナップショットのために予約する容量を決める

スナップショットが有効な間、あらゆる変更に対応できるよう、十分な容量を確保しておいてください。予約した容量を使いきってしまうと、スナップショットは停止します。

ファイルの作成、編集、削除などは、すべて容量を必要とします。例えば、1MB のファイルを削除すると、予約されていた 1 MB のスペースを使用することになります。

➢ **スナップショットのために予約する容量を決める：**

1. FrontView メインメニューから［**ボリューム**］>［**ボリューム設定**］を選択します。
2. ［スナップショット］のタブをクリックします。

   FrontView で［スナップショット］タブが表示されない場合、ボリュームでスナップショットが設定されていないことを意味します。
3. ［スナップショット領域］の欄でスナップショット用に確保する容量を決定します。
4. ［**保存**］をクリックします。

今すぐスナップショットを作成

定期的なスナップショットスケジュール以外にも、長いバックアップを開始したい場合や、スナップショットを使用するバックアップを設定したい場合は、随時スナップショットを作成することができます。

➢ **今すぐスナップショットを作成する：**

1. FrontView メインメニューから［**ボリューム**］**>**［**ボリューム設定**］を選択します。
2. ［スナップショット］のタブをクリックします。

   FrontView で[スナップショット]タブが表示されない場合、ボリュームでスナップショットが設定されていないことを意味します。
3. ［**スナップショットを直ちに行う**］をクリックします。

その他のサービス

7

この章では、ReadyNAS を使って ローカル Web サイトを作成したり、USB プリンタを他のユーザと共有する方法について説明しています。

この章には次の内容が含まれます。

- *ローカル Web サイトの作成とアクセス*
- *プリンタの設定*

ローカル Web サイトの作成とアクセス

ReadyNAS で、ローカルネットワークにいるユーザが誰でも閲覧することのできる、ローカル Web サイトを作成することができます。

- **ローカル Web サイトを作成する：**

1. Web サイト用の共有を作成し、Web サイトのファイルをここにコピーします。
2. FrontView メインメニューから［**共有**］>［**共有リスト**］を選択します。
3. Web サイトを含む共有の右側にある HTTP のアイコンをクリックします。
4. ［デフォルトのアクセス］のドロップダウンリストから、［**リードのみ**］を選択します。
5. ［**アクセスを許可するホスト**］というチェックボックスのチェックを外します。
6. ［**適用**］ボタンをクリックします。
7. FrontView のメイン画面で［**サービス**］>［**ファイル・サービス**］を選択します。
8. HTTP の欄で、［デフォルトの Web アクセスをこの共有にリダイレクト］**という**ドロップダウンリストから、共有の名前を選択します。
9. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

- **ローカル Web サイトにアクセスする：**

1. Web ブラウザを起動します。
2. ReadyNAS の IP アドレスを入力します。

プリンタの設定

USB プリンタを ReadyNAS の USB ポートに接続した後は、IPP、CIFS/SMB、または Bonjour 印刷対応のコンピュータであればこれを使用することができます。FrontView では、プリンタのキュー待ちジョブの状況を見ることができ、システムをブロックしているジョブがあれば、削除することができます。

- **Bonjour 経由で Windows コンピュータでプリンタを設定する：**

1. ご利用の Windows コンピュータで Bonjour プリントサービスをダウンロードし、インストールします。*http://www.apple.com/jp/support/bonjour/* からダウンロードすることができます。
2. Bonjour プリンタウィザードを使い、プリンタを設定します。

- **CIFS/SMB 経由で Windows コンピュータでプリンタを設定する：**

1. Windows コンピュータで RAIDar を起動します。
2. プリンタに接続されている ReadyNAS を選択し、［**ブラウズ**］をクリックします。
3. プリンタのアイコンをダブルクリックします。

- **印刷ジョブの表示と管理：**

  1. FrontView メインメニューから［**プリンタ**］>［**プリンタキューの管理**］を選択します。
  2. 印刷ジョブを削除したい場合は、削除するジョブの隣にあるチェックボックスを選択し、［**印刷ジョブの削除**］をクリックします。

ReadyNAS の管理

8

この章では、ReadyNAS の各種オプションの設定について説明しています。この章には次の内容が含まれます。

- *時刻とタイムゾーンの設定*
- *言語の設定*
- *警告の送信*
- *ReadyNAS のオン / オフを切り替える*
- *バックアップと復元の設定*
- *アドオンの管理*
- *パフォーマンスの向上*
- *ネットワーク設定*
- *ログファイルの表示*

時刻とタイムゾーンの設定

ReadyNAS のタイムゾーンを設定することができます。また、正しい時刻を手動で設定することもできますが、システムで自動的に設定することもできます。

- **タイムゾーンの設定：**

  1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**時計**］を選択します。
  2. ［タイムゾーン］のドロップダウンリストから、タイムゾーンを選択します。
  3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

     設定が保存されます。

- **時刻の手動設定：**

  1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**時計**］を選択します。
  2. ［現在の時刻の指定］という欄で、ドロップダウンリストから正しい時刻を選択します。

     ドロップダウンリストが表示されていない場合、時刻は自動的に設定されたことを意味します。［**下記の NTP サーバと時計の同期を取る**］というチェックボックスのチェックを外し、手動で時刻を設定します。
  3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

     設定が保存されます。

- **時刻の自動設定：**

  1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**時計**］を選択します。
  2. ［NTP のオプション］の欄で、［**下記の NTP サーバと時計の同期を取る**］というチェックボックスを選択します。

     すでに入力済みの NTP サーバを使用するか、または一旦削除し、自分で入力することもできます。
  3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

     設定が保存されます。

言語の設定

ReadyNAS がファイルリストやメールの自動生成に使用する言語を設定することができます。ReadyNAS にアクセスするユーザで最も多く使われている言語を選択してください。

ここでの設定は、FrontView または RAIDar の表示言語には影響しません。これらの言語を変更する場合は、Mac OS X のシステム環境設定、または Windows のコントロールパネルで行なってください。

➢ **言語を設定する：**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］**>**［**言語**］を選択します。
2. ［言語設定］のドロップダウンリストから、言語を選択します。
3. ［言語設定］のドロップダウンリストから Unicode 言語を選択する場合は、Unicode の文字をユーザ名、グループ名、共有名で使用できるように、［**ユーザ名、グループ名、共有名に unicode も使えるようにする**］というチェックボックスを選択します。

   このオプションを後から無効にする場合は、工場出荷時の状態にリセットしなければなりません。この場合、ReadyNAS に保存されたすべてのデータが消去されます。
4. FTP プロトコルを有効に設定した場合、FTP クライアントは ReadyNAS と異なる文字のエンコーディングを使用しますので、［**FTP クライアントの文字エンコードの変換を行います。**］というチェックボックスを選択し、文字の変換を行なってください。
5. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

警告の送信

ReadyNAS は、重要なイベントが発生した際に、ユーザや管理者にメールでお知らせを送ることができます。また、アカウントが作成されたり、クォータの超過の場合などに、ユーザにお知らせを送ることができます。さらにシステムに注意が必要な場合なども、管理者に警告メッセージを送ります。

ここでは、管理者やユーザがメッセージを送る際に使う差出人メールアカウントの設定について説明しています。また、誰が、どのようなタイミングで警告メッセージを受け取るかについても設定することができます。ユーザメッセージの受信者を決定するには、30 ページの *ユーザとグループの管理* を参照してください。

警告メール送信用に使われるアカウントの変更

管理者やユーザにメールを送信する際に使われるアカウントは変更が可能です。管理者は、ReadyNAS に問題がある場合等にメールを受信します。また、ユーザは、ディスクのクォータが近づいた時、またはクォータを超過した時にメールを受け取ります。

このアカウントは、メールが送られるアカウントである必要はありません。

➢ **警告メール送信用に使われるアカウントの変更。**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**警告**］を選択します。
2. ［通知者］のタブをクリックします。
3. ［Email Provider］のドロップダウンリストからプロバイダを選択してください。

   ご利用のプロバイダがリストにない場合は、［**カスタム**］から作成します。
4. ［ユーザ］と［パスワード］の欄で、ユーザ名とパスワードを入力します。
5. ［メールサービスプロバイダ］で［**カスタム**］を選択すると、［SMTP サーバ］、［SMTP ポート］、［送信元］および［TLS を使用する］などの LAN を選ぶことができます。

   これらの欄に何を入力するか分からない場合は、プロバイダにお問い合わせください。
6. (オプション) 入力したメールアドレスが正しいかどうか確認するには、［**テストメッセージの送信**］をクリックします。

   メッセージは、リストに追加したすべてのユーザに転送されます。
7. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

警告を受信する人を変更する

FrontView を使い、システムで何かトラブルが発生した際に、メールで警告を送る人を設定します。

➢ **警告を受信する人を変更する：**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**警告**］を選択します。
2. ［通知者］のタブをクリックします。
3. ［警報メールの通知者 1］、［警報メールの通知者 2］、そして［警告メールの通知者 3］の欄にそれぞれ、警告の宛先となるメールアドレスを入力します。
4. (オプション) 入力したメールアドレスが正しいかどうか確認するには、［**テストメールの送信**］をクリックします。

   メッセージは、リストに追加したすべての宛先に送信されます。
5. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

警告を送信するタイミングを決定する

ディスクがいっぱいになってきたり、システムが危険なほど熱くなり始めた場合など、どのようなイベントで管理者にメールが送られるようにするか、設定することができます。デフォルトは、すべてのイベントが選択されています。既に把握している事項についての警告が送られてきた場合は、警告メールを送るイベントのチェックを外すことができます。NETGEAR は、チェックボックスを選択したままにしておくことを推奨します。

- **警告を送信するタイミングを決定する：**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**警告**］を選択します。
2. ［設定］タブをクリックします。
3. ［警告イベント］の欄で、警告メッセージが送られるきっかけとなる条件のチェックボックスを選択します。

   一部チェックを無効にできない警告もあります。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ReadyNAS のオン / オフを切り替える

ボタンにアクセスできない場合は、FrontView で ReadyNAS のオン / オフを切り替えることができます。また、設定された時刻に自動的にシャットダウンするよう設定するおともできます。

ReadyNAS を今すぐオフにする

本体正面にあるボタンを押すと、ReadyNAS をオフにすることができます。ReadyNAS を近くに置いてない場合は、FrontView からシャットダウンできます。

- **ReadyNAS を今すぐオフにする：**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**シャットダウン**］を選択します。
2. ［**シャットダウンし、デバイスの電源を切ります。**］のラジオボタンを選択します。
3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   これで、ReadyNAS がシャットダウンします。

ReadyNAS の再起動

万が一、ReadyNAS にあるファイルに不具合があったり、またはクォータが正しくない場合、FrontView から ReadyNAS システムを再起動して確認してください。

➢ **ReadyNAS を再起動する：**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**シャットダウン**］を選択します。
2. ［**シャットダウンし、デバイスを再起動します。**］のラジオボタンを選択します。
3. (オプション) ReadyNAS と システム上のファイルが破損していると考えられる場合、［**次回起動時にボリュームスキャンを実行します。・・・**］というチェックボックスを選択します。

   次回 ReadyNAS システムを再起動する際、スキャンが実行されます。このスキャンは、ディスクのサイズによって、完了するまでに 1 時間ほどかかる場合があります。
4. (オプション) ReadyNAS システムのクォータが正しくないと思われる場合、［**次回起動時にクォータをチェックし、修正します。・・・**］というチェックボックスを選択してください。

   次回 ReadyNAS を再起動する際、スキャンが実行されます。このスキャンは、ディスクのサイズによって、完了するまでに 1 時間ほどかかる場合があります。
5. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   これで、ReadyNAS がシャットダウンし、再起動します。スキャンを選択した場合、再起動時にスキャンが行われます。スキャンを終えると、ReadyNAS は使用可能となります。

スケジュールを使い、ReadyNAS のオン / オフを切り替える

ReadyNAS システムが自動的に電源のオン / オフされるよう、スケジュールを設定しすることができます。一週間の各曜日に異なるスケジュールを組むことができます。

➢ **スケジュール上で、ReadyNAS システムのオン / オフを切り替える：**

1. FrontView メインの欄で、［**システム**］>［**電源**］を選択します。
2. ［パワータイマー］の欄で、［**パワータイマーを有効にする**］というチェックボックスを選択します。
3. この欄のドロップダウンリストを使い、ReadyNAS システムのオン / オフを切り替えるスケジュールを設定します。

   一部の ReadyNAS システムは、自動的にオンにできないものもあります。システムがこの機能に対応していない場合、［アクション］のドロップダウンリストで「電源オン」が利用できなくなります。

   ［アクション］のドロップダウンリストで空欄を選択すると、ReadyNAS はそのまま維持され、オン / オフにはなりません。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

トラブルを避けるため、ReadyNAS を自動的にオフにする

ReadyNAS の温度が急激に高くなったり、ディスクが故障したり、といった緊急事態に対応し、ReadyNAS システムが自動的にオフになるよう設定することができます。

➢ **トラブルを避けるため、ReadyNAS システムを自動的にオフにする：**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**警告**］を選択します。
2. ［**設定**］タブをクリックします。
3. ［その他の警告の設定］の欄で、以下のいずれかを選択します。
   - ディスクエラーやフリーズ時に ReadyNAS システムをオフにするには、[**ディスクが故障したり、応答がない場合に、ReadyNAS の電源を切ります。**］にチェックを入れます。
   - 温度が急激に上昇した際に ReadyNAS システムをオフにするには、[**ディスクの温度が安全レベルを超えた場合、ReadyNAS の電源を切ります。**]にチェックを入れます。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

バックアップと復元の設定

ReadyNAS の設定や環境設定をバックアップし、もう 1 つ同じ設定の ReadyNAS システムを作成したい場合に使用できます。バックアップした情報を、別のシステムで復元することができます。

ReadyNAS システムに保存されたファイルをバックアップする場合は、*第 6 章 ファイルのバックアップ* をご覧ください。

➢ **設定をバックアップする：**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**設定のバックアップ**］を選択します。
2. ［**バックアップ**］タブをクリックします。
3. バックアップする内容を選びます。
   - ユーザがアクセスできる共有、各共有に対するユーザの権限、および共有に対して有効なプロトコルなどをバックアップするには、［**共有アクセス**］をクリックします。
   - 有効になっているファイル共有プロトコルとストリーミングおよびディスカバリサービスをバックアップするには、［**サービス**］を選択します。
   - ユーザとグループの名前をバックアップするには、［**ユーザとグループ**］を選択します。
   - IP アドレスやホスト名などのネットワーク設定情報をバックアップする場合は、［**ネットワーク設定**］を選択します。

- その他の設定 (バックアップジョブの定義やメール警告設定など) をバックアップするには、［**その他の設定**］を選択してください。
- 50 MB 分のファイルを共有に保存するには、［**データボリューム**］を選択します。
- これらすべての情報をバックアップする場合は、［**すべて**］を選択します。

4. ［**設定ファイルのダウンロード**］をクリックし、アーカイブを保存するかどうかを決定します。

   設定は圧縮ファイルとして、選択された場所に保存されます。

➢ **保存された設定の復元 :**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**設定のバックアップ**］を選択します。
2. ［復元］タブをクリックし、［**参照**］をクリックして、設定のアーカイブを選択します。
3. ［**復元**］**をクリックします。**

アドオンの管理

アドオンを利用すると、ReadyNAS システムに新たな機能を追加することができます。例えば、ReadyNAS システムで他社のバックアップソフトウェアを利用できるようになったり、異なる機器にマルチメディアファイルをストリーミングすることができます。アドオンの利用状況については、以下のサイトをご覧ください。*http://www.readynas.com/ja/?cat=36* および *http://www.readynas.com/ja/?cat=57*。

インストールされたアドオンの管理

➢ **インストールされたアドオンを管理する :**

1. FrontView のメインメニューから［**サービス**］>［**インストール済みのアドオン**］を選択します。

   各アドオンが表示されます。

2. アドオンを削除する場合は、該当欄の［**削除**］ボタンをクリックします。
3. アドオンのオプションに変更を加えた場合は、該当欄の［**保存**］ボタンをクリックして変更を保存します。

アドオンのインストール

アドオンを *http://www.readynas.com/ja/?cat=36* および *http://www.readynas.com/ja/?cat=57* からダウンロードしたら、ReadyNAS システムにインストールする必要があります。

➢ **アドオンをインストールする :**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**アップデート**］を選択します。
2. ［ローカル］のタブをクリックします。

3. ［**参照**］をクリックし、アドオンファイルを選択します。

   ほとんどのアドオンは、.bin という拡張子を使用しています。

4. ［**アップロードしベリファイする**］をクリックします。

   ReadyNAS システムは、ファイルが有効なものであるかどうかを判断します。

5. ［**システムアップデートの実行**］をクリックします。

   ReadyNAS システムがアドオンをインストールします。

6. アドオンを使用するには、FrontView のメインメニューから［**サービス**］>［**インストール済みのアドオン**］を選択します。

パフォーマンスの向上

ここでは、ある程度の制限やデータ損失のリスクを承知の上で、ReadyNAS のシステムパフォーマンスを向上させるオプションについてご紹介しています。以下は、パフォーマンス向上のための幾つかのオプションです。

- クライアントコンピュータとルータがジャンボフレームに対応している場合は、108 ページの *ジャンボパケットサポートを有効にする* をご覧ください。
- ReadyNAS システムに複数のユーザが同時にアクセス可能なファイル (Quickbooks データベースなど) が含まれない場合、63 ページの *CIFS を使ってファイルをローカルでキャッシュする* をご覧ください。

➢ **パフォーマンスを向上させる：**

1. FrontView メインメニューから［**システム**］>［**パフォーマンス**］を選択します。
2. 以下のオプションを設定します。（表示されるオプションは機種により異なります。）
   - 万が一、電源が故障した場合、データが失われでも差し支えない場合は、［**ディスク書込みキャッシュを有効にします。**］を選択します。このオプションは、データが書き出される前に、ディスクが書き込みリクエストを認識できるようにします。これにより、書き込みパフォーマンスが向上しますが、書き込みキャッシュへまだ書き込まれていないデータは、万が一電源が故障した場合などに失われる可能性があります。
   - ReadyNAS システムに UPS 保護が搭載されている場合、［**フルデータジャーナリングを無効にします。**］を選択します。突如電源の不具合が生じた場合などに、データが失われる可能性があります。このオプションを利用すると、ディスクの書き込みパフォーマンスが格段に向上します。
   - 電源の不具合が生じた後、長時間のシステムチェックを行なっても構わない場合は、［**ジャーナリングを無効にします。**］を選択します。ファイルシステムの整合性チェックにかかる時間は、ジャーナリングなしの場合は 1 時間以上ですが、ファイルシステムのジャーナリングを使用した場合は数秒程度まで短縮されます。ジャーナリングを無効にすると、ディスクの書き込みのパフォーマンスがわずかに向上します。
   - ReadyNAS システムに複数のユーザが同時にアクセスするファイル (QuickBooks データベースなど) がない場合、［**高速 CIFS ライトを有効にします。**］を選択します。これにより、CIFS においてアグレッシブな書込みが可能となり、パフォーマンスが向上します。同期された書き込みは、複数のユーザが同時にアクセスするファイルの同期状態を保ちます。

- USB 機器を正しくアンマウントし、ReadyNAS から取り外すことができる場合は、**[高速 USB ディスクへの書込みを有効にします。]** を選択します。同期モードの USB 機器へのアクセスを許可することで、USB 書き込みアクセスの速度が向上します。

3. **[適用]** ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ネットワーク設定

ReadyNAS が使用するネットワークについての情報を設定することができます。また、ネットワーク上で認識しやすいよう、ReadyNAS の名前を変更することもできます。

TCP/IP アドレス情報の設定

ReadyNAS の TCP/IP アドレス (DNS 含む) 情報を入力することができます。通常は、初期設定を変更する必要はありません。

➢ **TCP/IP アドレス情報を設定する :**

1. FrontView メインメニューから **[ネットワーク] > [インターフェース]** を選択します。
2. ルータが自動的に ReadyNAS の IP アドレスを割り当てる場合、**[IPv4 割り当て]** のドロップダウンリストから、**[DHCP サーバからの情報を使用する]** を選択します。

   ReadyNAS に手動で IP アドレスを割り当てる場合、**[IP 割り当て]** のドロップダウンリストで **[下記の値を使用]** を選択し、指示に従います。

   a. **[IP アドレス]** 欄に、IP アドレスを入力します。
   b. **[サブネットマスク]** の欄で、サブネットマスクを入力します。
   c. **[適用]** ボタンをクリックします。
   d. FrontView メインメニューから **[ネットワーク] > [グローバル設定]** を選択します。
   e. **[デフォルトゲートウェイ]** の欄で、デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
   f. **[DNS ネームサーバ 1]**、**[DNS ネームサーバ 2]**、**[DNS ネームサーバ 3]** の欄で、DNS サーバのアドレスを入力します。
   g. **[適用]** ボタンをクリックします。
3. ReadyNAS の IP アドレスを変更した場合、RAIDar を実行し、**[再探索]** をクリックした後、ReadyNAS を再接続してください。

ReadyNAS を DHCP サーバとして設定する

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サービスを用いると、ネットワーク上の新規クライアントに動的に IP アドレスを割り当てることで、ネットワーク管理が簡易化されます。

警告！

すでに別の DHCP サーバを使用しているネットワーク上で新たに DHCP サービスを有効にすると、競合が発生し、インターネットにアクセスできなくなる可能性があります。

ReadyNAS ストレージシステムが DHCP サーバとして機能するように設定できます。この機能は、DHCP サーバがないネットワークに ReadyNAS ストレージシステムをインストールした場合にのみ有効です。

この機器を DHCP サーバとして使用したい場合、まずネットワーク設定において静的アドレスを指定する必要があります。詳しくは 105 ページの *TCP/IP アドレス情報の設定* をご覧ください。

➢ **ReadyNAS を DHCP サーバとして設定する：**

1. FrontView メインメニューから［**ネットワーク**］>［**DHCP**］を選択します。

   すでに DHCP サービスが存在する場合、ReadyNAS システムではこの機能は利用できません、というメッセージが表示されます。

   現在ネットワーク上に DHCP サービスがない場合、DHCP の詳細画面が表示されます。

2. ［**DHCP サービスを有効にする**］のチェックボックスを選択し、以下の欄を記入してください。
3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ホスト名の変更

ホスト名は、警告メッセージ、FrontView、Mac OS X の Finder、Windows エクスプローラなどで表示される ReadyNAS システムの名前です。デフォルトは、NAS に ReadyNAS システムの MAC アドレスの下 4 桁が追加された名前となっています。

➢ **ReadyNAS の名前を設定する：**

1. ［**ネットワーク**］>［**グローバル設定**］を選択します。
2. ［**ホスト名**］の欄で新しいホスト名を入力します。
3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

イーサネットオプションの設定

ReadyNAS がオンの時に、イーサネットネットワークの情報を設定することができます。通常は、初期設定を変更する必要はありません。

➢ **イーサネットオプションを設定する：**

1. FrontView メインメニューから［**ネットワーク**］>［**インターフェース**］を選択します。
2. (オプション) ReadyNAS が全二重または半二重を使用するよう指定する場合は、［速度および全二重 / 半二重の指定］のドロップダウンリストから、オプションを選択してください。
3. (オプション) 初期設定のパケットサイズを変更する場合は、[MTU] の欄で新しいパケットサイズを指定してください。
4. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

WINS サポートを有効にする

Windows Internet Name Service (WINS) サポートを有効にすると、ローカルネットワークにいないユーザでも ReadyNAS システムにアクセスすることができます。また、ReadyNAS が WINS サーバとなるよう設定することも可能です。

➢ **WINS サポートを有効にする：**

1. FrontView メインメニューから［**ネットワーク**］>［**WINS**］を選択します。
2. ［WINS サーバ］の欄に、WINS サーバのアドレスを入力します。
3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

➢ **ReadyNAS を WINS サーバとして使用する：**

1. FrontView メインメニューから［**ネットワーク**］>［**WINS**］を選択します。
2. ［**本機を WINS サーバとする**］というオプションを選択します。
3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

   設定が保存されます。

ジャンボパケットサポートを有効にする

ジャンボパケットサポートを有効にすると、ユーザはより素早く ReadyNAS のファイルにアクセスできるようになります。有効にする前に、ネットワークルータとネットワーク上のコンピュータがジャンボパケットに対応しているかどうか確認してください。

- **ジャンボパケットサポートを有効にする：**

  1. FrontView メインメニューから［**ネットワーク**］>［**インターフェース**］を選択します。
  2. ［**パフォーマンス設定**］の欄で、［**ジャンボ・フレームを有効にします。**］を選択します。
  3. ［**適用**］ボタンをクリックします。

     設定が保存されます。

ログファイルの表示

ReadyNAS のログファイルを表示またはダウンロードし、問題を診断することができます。FrontView でログファイルを表示すると、重要な情報の概要が表示されます。この後、ログファイルをダウンロードすることで、完全な情報を閲覧することができます。

- **ログファイルを表示する：**

  FrontView のメインメニューで［**状態**］>［**ログ**］を選択します。

  緑色は、ステータス情報のみを示します。黄色は警告を示します。赤は危険な状態であり、早急な対処を要することを意味します。

- **完全なログファイルをダウンロードする：**

  1. FrontView のメインメニューで［**状態**］>［**ログ**］を選択します。
  2. ［**全てのログをダウンロード**］というリンクをクリックします。

     ファイルがブラウザの既定の場所にダウンロードされます。

適合性に関する情報

A

NETGEAR 有線製品

各種規定との適合に関する情報

このセクションでは、電波スペクトルの使用および無線装置の操作方法に関する国内の規定に基づき本機を操作するための条件を記載しています。適合法に準拠できない場合、ユーザは行政当局により定められた規定に対し、非合法的な操作や行動を招く結果となります。

本製品のファームウェアは、特定の地域や国家で許可されたチャンネルでのみ操作可能となっています。このため、本ユーザガイドに記載されている一部の説明は、ご利用の製品バージョンに適応されない場合もあります。

米国における FCC 要件

ユーザへの FCC 情報

本機にはユーザ自らが修理できる部品は含まれておらず、承認されたアンテナのみご利用になれます。本機に何らかの変更や修正を加えた場合、関連法に基づく認証や承認は無効となります。

本機は FCC 規定第 15 項に準拠しています。本機の操作は次の対象となります。(1) 本機は有害な干渉を引き起こしてはなりません。(2) 本機は、予期せぬ動作を引き起こす可能性のあるものを含め、すべての干渉を受信しなければなりません。

人体暴露に関する FCC ガイドライン

本機は、規制のない環境下に対し設定された FCC 放射線暴露制限を満たしています。本機は放熱体や人体から 20cm 以上離れた場所に設置してください。

本機は他のアンテナや転送装置と一緒に設置したり、操作したりしないでください。

FCC 適合宣言

我々 NETGEAR (350 East Plumeria Drive, Santa Clara, CA 95134) は、弊社の義務として NETGEAR ReadyNAS Duo v2 および NV+ v2 が FCC 規定第 15 項に準拠することを証明します。

本機の操作は次の対象となります。

- 本機は有害な干渉を引き起こしてはなりません。
- 本機は、予期せぬ動作を引き起こす可能性のあるものを含め、すべての干渉を受信しなければなりません。

FCC ラジオ周波数干渉警告および指示

本機は FCC 規定第 15 章の Class B デジタル装置としてテスト済みです。これらの規制は、住宅地区における使用に際し、有害な干渉を防ぐために設定されています。本機は電磁波を発生し、外部に放射することがあります。指示どおりインストールまたは使用されない場合、無線通信に対し有害な干渉を招く可能性があります。ただし、特定のインストールを行うことで干渉防止を保証するものではありません。

本装置がラジオやテレビの受信に有害な干渉を招いており、本機の電源をオン / オフにすることでその干渉が確実な場合は、以下のいずれかの方法で干渉を回避してください。

- 受信アンテナの方向を変える、または設置しなおす。
- 本機とテレビ受信機との間隔を離す。
- 本機をテレビ受信機とは別のコンセントに差し込む。
- ラジオまたはテレビの販売店または技師に相談する。

本機に対し NETGEAR が承認していない変更などを加えた場合、ユーザの本装置使用権限が無効になる場合があります。

カナダ通信省の無線障害規制

このデジタル装置 (NETGEAR ReadyNAS Duo および NV+ は、カナダ通信省（Canadian Department of Communications）の無線障害規制（Radio Interference Regulations）に規定された、デジタル装置から放出される電波雑音のクラス B 規制に適合しています。

欧州連合

ReadyNAS Duo および NV+ は EU EMC 指令 2004/108/EC および低電圧指令 2006/95/EC の基本条件を満たしており、以下の試験方法および標準に申請し、準拠しています。

- EN55022:2006 / A1:2007
- EN55024:1998 / A1:2001 / A2:2003
- EN60950-1:2005 2nd Edition
- EN 61000-3-2:2006
- EN 61000-3-3:1995 w/A1:2001+A2:2005

日本

この装置は，クラスB情報技術装置です。この装置は，家庭環境で使用することを目的としていますが，この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると，受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。　VCCI－B

GPL ライセンス規約

本製品には GPL が含まれる場合があります。GPL ライセンス規約については、下記 URL をご覧ください :
ftp://downloads.netgear.com/files/GPLnotice.pdf。

GNU General Public License (GPL）に関する情報は、下記 URL をご覧ください。
http://support.netgear.com/app/answers/detail/a_id/2649

索引

A

AFP
- アクセス制御 54
- 有効 45

B

Bonjour
- 印刷 94
- ストリーミング 80

C

CIFS
- アクセス制御 50
- 印刷 94
- キャッシングファイル 63
- ごみ箱 62
- 他の共有を隠す 62
- 有効 45

D

DHCP サーバ 105

F

FCC 109

Firefly
- スマートプレイリスト 74
- パスワード 75

Flex-RAID 19

FrontView 12
- アクセス権限のアイコン 44
- 起動 12, 13

FTP
- アクセス制御 56
- 共有へのアクセス 68
- 匿名アクセス 56
- 文字コード 98
- 有効 45

G

GID 35

H

HTTP
- Web サイト 94
- アクセス制御 58
- 有効 45

I

IP アドレス 105

IPP 印刷 94

IPv4 割り当て 105

iTunes ストリーミング
- スマートプレイリスト 74
- パスワード 75

L

Linux
- 共有へのアクセス 68
- システム要件 7

M

Mac OS X
- 共有へのアクセス 67
- システム要件 7
- バックアップ 82

N

NFS
- アクセス制御 55
- 同期 63
- 有効 45

NTP サーバ 97

O

oplocks 63

R

RAID レベル 19
RAIDar 10
ReadyNAS Photos 78
ReadyNAS Remote
    インストール 69
    共有へのアクセス 69
    有効にする 69
ReadyNAS Vault 83
Rsync
    有効 45

S

SMB については CIFS を参照

T

TCP/IP アドレス 105
Time Machine バックアップ 82

U

UID 30
Unicode 98
UNIX
    共有へのアクセス 68
    システム要件 7
UPnP ストリーミング 80
USB
    デバイス 24

W

Web サイト , 設定 94
Windows
    共有へのアクセス 67
    システム要件 7
Windows Internet Name Service 107
WINS サポート 107

X

X-RAID 17

あ

アクセス権限 44
アクセス制御
    AFP 53
    CIFS 52
    NFS 55
    FTP 57
    HTTP 58
    Rsync 59
    概要 49
アドオン 103
    ReadyNAS Photos 78
    ReadyNAS Remote 69
アルバム , フォト 78

い

イーサネットオプション , 設定 107
インポート
    グループ 39
    ユーザ 38

え

エクスポート
    グループ 37
    ユーザ 37

か

外部ディスクドライブのコピー 26
完全バックアップ 87
管理者パスワード 40

き

共有
    アクセス権限 44
    隠す 62
    ファイル共有プロトコル 43
    ユーザアカウントの制御 49
共有セキュリティモード
    アクセス制御 60
    概要 28
    共有の作成 48
共有を隠す 62
許可
    新規ファイル 64
    リセット 66

く

クォータ
- 共有 48
- ユーザ 31
- ユーザに警告 35

グループ
- インポート 39
- エクスポート 37
- 管理 35
- 作成 35
- ユーザプライマリ 30

グループ ID 35
グループアカウント 30

け

言語 , 設定 98

こ

ごみ箱
- CIFS 62
- プライベートホーム共有 34

さ

再起動 101
作成
- グループ 35
- ボリューム 21
- ユーザ 30

サブネットマスク 105
サポート 2

し

時刻 , 設定 97
システム要件 7
ジャーナリング 104
写真をメール送信 79
シャットダウン
- いますぐ 100
- スケジュール 101
- リブート 101

ジャンボパケットサポート 108
商標 2

す

スキャン
- iTunes 76
- ReadyDLNA 77
- TiVo 77
- Xbox 77

スケジュール
- シャットダウンとスタートアップ 101
- バックアップ 87

スナップショット 90
スマートプレイリスト 74

せ

セキュリティモード 28
設置場所
- ReadyNAS 12

そ

増分バックアップ 87

て

ディスカバリサービス 80
ディスク
- Flex-RAID ボリュームに追加 22
- X-RAID で交換 18
- 概要 16
- 構成 16

ディスク交換
- X-RAID 18

ディスクドライブ
- 外部のコピー 26
- 切断 25
- 場所 25
- フォーマット 25

ディスクドライブの切断 25
ディスクドライブのフォーマット 25
ディスクの交換
- ボリューム 23

ディスクの追加
- Flex-RAID ボリューム 22
- X-RAID 18
- Flex-RAID ボリューム 22

適合性 109
適合宣言 109

と

時計 , 設定 97
ドメインサーバ 29
ドメインセキュリティモード
  アクセス制御 50
  概要 28
  共有の作成 48
ドメイン・ネーム・サーバ 105

は

場所
  ディスクドライブ 25
パスワード
  iTunes 75
  管理者の変更 40
  管理者パスワードの復元 40
  共有 48
  ユーザ 31
  ユーザの変更 31, 32
バックアップ
  Mac OS X 82
  ReadyNAS 83
  外部ディスクドライブ 26
  スケジュール 87
  設定 102
パフォーマンス 104

ふ

ファイル共有プロトコル
  概要 43
  管理 46
  対応 43
  有効 45
ファイルの所有権 , リセット 66
フォト , 共有 78
フォルダの所有権 , リセット 66
復元
  設定 102
  バックアップジョブ 89
物理ボリューム 16
プライベートホーム共有
  管理 30
  ごみ箱 34
  ボリュームの選択 33
  無効 33
プライマリグループ , ユーザ 30
プリンタ 94
プレイリスト , スマート 74

へ

便宜的ロック 63

ほ

ボリューム 16
  作成 21
  ディスクの交換 23
  ディスクの追加 22

み

ミラーリング RAID 19

め

メールアカウント 99
メールアドレス
  管理者 98, 99
メールアドレスユーザ 30, 31

ゆ

ユーザ
  インポート 38
  エクスポート 37
  共有アクセス制御 49
  作成 30
ユーザ ID 30
ユーザアクセス制御
  AFP 54
  CIFS 51
  FTP 56
ユーザセキュリティモード
  アクセス制御 50
  概要 28
  共有の作成 48

り

リードのみアクセス権限 50
リード / ライトアクセス権限 50
リセット
  許可 66
  ファイルとフォルダの所有権 66
リブート 101

ろ

ログファイル 108
論理ボリューム 16